

広島経済同友会まちづくり委員会 提言書

～オール広島で「元気なまち“ひろしま”」を作るための3つの提言～

2023年3月



広島経済同友会
まちづくり委員会

目次

第1章 背景・目的 ～今、何が必要か？～

広島の都心部のまちづくりの流れ（広島経済同友会の動き含む）	2
提言書作成の背景	3

第2章 現状と課題 ～支部ヒアリングを踏まえて～

都心部と中山間地域の現状と課題	5
I 広島市中心部	
II 呉地区	
III 三原地区	
IV 尾道地区	
V 福山地区	
VII 備北地区	
VIII 東広島地区	
各地域のヒアリングを通じての共通課題の整理	19

第3章 まちづくり委員会の具体的活動 ～地域間連携のための課題解決に向けた具体的な活動～

まちづくり委員会の活動実績	21
広島の「良いところ悪いところ」の整理	22
関係者ヒアリング	23
発信の場の創出	27
パネルディスカッション	32
学生との意見交換	36
シンポジウム	40

第4章 地域間連携のためのキーワード ～地域間をつなげていくためのキーワードと目指すべき姿～

具体的な活動を通じて見えてきたキーワード	44
----------------------	----

第5章 課題解決のための具体的施策 ～地域間をつなげていくための3つの提言～

地域の共通課題に対する3つの具体的解決策	47
提言1 組織の一元化	48
提言2 情報の一元化	49
提言3 コンテンツのブラッシュアップ	50
－まちなか神楽	
－ひろしま市場	
－地域の困りごとと解決策を引き合わせる「マッチングサイト」	
－ワーケーション推進月間の制定	
－「ALL Hiroshima キッザニア」と「大人の社会見学」	
－学校間による地域間交流のカリキュラムへの組み込み	
－熱量のある人が登録(一元化)されたプラットフォーム	
－マルシェの自走化に向けた支援	

1

背景・目的

～今、何が必要か？～

広島市の都心部のまちづくりの流れ（広島経済同友会の動き含む）

広島市の都心部のまちづくりの動きについては、2016年の広島経済同友会都市機能委員会の提言『『国際交流平和都市 新生“ひろしま”』を目指して～50年後も輝き続ける広島であるために～』以降、サッカースタジアムの建設や広島駅南口広場等の再整備、市営基町駐車場周辺地区一帯の再開発事業等、多くの再開発事業が進められている。また、広島県・広島市による広島市都心部の将来像や目指すべき姿を記載した「ひろしま都心活性化プラン」の策定や、広島都心部の一部の「特定都市再生緊急整備地域」の指定、官民連携のまちづくり新組織「広島都心会議」の設立、各地域でのエリアマネジメント団体などのまちづくり団体の相次ぐ組成など、活性化を推進する動きが、数多く起こりつつある。

これらの動きにより、広島市の都心部では、今後、公共空間等を活用した幅広い用途の利用を可能とする「受け皿」が数多く整備されることが想定される。一方で、そのような受け皿で披露するコンテンツの創出が依然として課題となっており、都心部の価値を高め、かつ賑わいの創出に繋がるようなコンテンツを生み出すことが求められている。

■ 2016年 3月

広島経済同友会 都市機能委員会での提言

『『国際交流平和都市 新生“ひろしま”』を目指して～50年後も輝き続ける広島であるために～』

<主な提言内容>

- ・産官学民が一体となって継続的にまちづくりを議論推進できる新たな仕組み・体制づくり
- ・手遅れにならないための施策

■ 2017年 3月

ひろしま都心活性化プラン 策定(広島県・広島市)

■ 2021年 5月

広島都心会議 設立(官民連携のまちづくり新組織)

再開発検討・実施
都心部の相次ぐ

整備地域の拡大
都市再生緊急

地域のまちづくり
団体の胎動

広島都心会議の設立と
それに伴う官民連携による
まちづくりの推進

エリアマネジメント団体
等のまちづくり団体の拡大

都市再生緊急整備地域の
拡大に伴う広島都心での
相次ぐ再開発事業

提言書作成の背景

まちづくり委員会では、2017年の委員会発足から「都心部」と「中山間地域」を一連(連携、共存)のものと考え、「都心部」や「中山間地域」をつなぐという視点から、それぞれの課題や賑わいづくりの方向性を把握し、「都心部」と「中山間地域」それぞれに個別のテーマを設定し、それぞれの賑わいづくりを作り上げていくという検討を進めてきた。

しかし、昨今のDX(デジタルトランスフォーメーション)の導入やライフスタイルの変化により、まちの機能や地域が持つべき役割も見直されている。また、「都心部」と「中山間地域」の関係性においても、相互に地域資源を再発見し、磨き上げ、連携させるなど足りないものを補い合うwin-winの関係になることが望ましい。

現在の広島都心部においては数々の大規模再開発が進む中で、その中で発信するコンテンツ不足が課題として挙げられており、一方で中山間地域においては地域独自の様々な魅力的なコンテンツはあるものの、その発信方法、PR方法が弱く、情報が地域外に伝わりづらい状況となっている。そして、最も問題である点は、「都心部」と「中山間地域」の課題をそれぞれで考えていた点である。

そこで、「都心部」と「中山間地域」のそれぞれの現状や課題を把握したうえで、「ないものを作る」よりも、まずは、各地域の特色・不足している点を補い合う連携・共存策、具体的な「つなぐ役割」を担う「方法・手段」について検討を行うことこそが「都心部」と「中山間地域」をつなぐことになるのではないかと考えた。

「都心部」、「中山間地域」のそれぞれが持つ資源を効率的に活用し、相互に魅力向上が図れる具体的な連携策について、各地区へのヒアリングや具体的な活動を通じて見えてきた点を踏まえ、提言する。



2

現状と課題

～支部ヒアリングを踏まえて～

都心部と中山間地域の現状と課題

オール広島で「元気なまち“ひろしま”」を目指すために、まずは広島の各地域で行われている取り組みや抱えている課題を整理しておく必要がある。ここでは、広島県内でみられるまちの動きや、これまでのまちづくり委員会で実施した各支部とのヒアリングなどを通じて確認した、各地域の現状と課題について整理する。

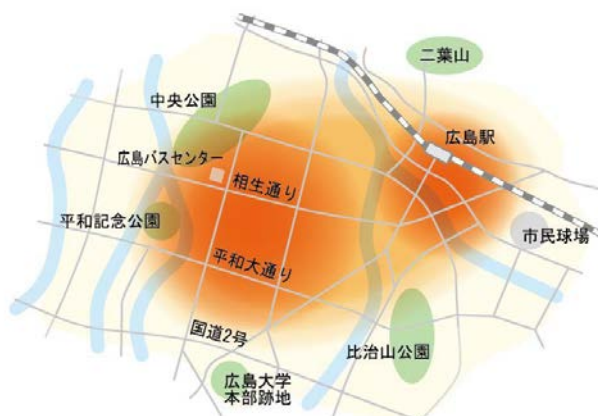
I 広島市中心部

広島市中心部は、企業の本社や支社、官公庁施設等、中枢都市にふさわしい都市機能を有する施設に加え、百貨店などの商業施設等も集積しており、広島広域都市圏の経済の中心といえる。また広島駅、広島バスセンター・紙屋町周辺などの交通結節点もあり、交通の要衝でもある。広島市中心部は、広域都市圏の経済・生活の中心としての役割を担い、中四国地方の中枢として地域の発展を牽引する役割を期待されている。

そのような中で、広島市では、広島駅周辺地区と紙屋町・八丁堀地区を都心の東西の核と位置付け、都市機能の集積・強化を図ることで相互に刺激し高め合う「楕円形の都心づくり」を進めており、2017年3月には、当エリアの将来像や目指すべき姿、その実現に向けた施策等を記載した「ひろしま都心活性化プラン」が策定された。

また、広島市中心部では、広島駅周辺並びに広島紙屋町・八丁堀地域が、従来より都市開発事業等を通じて緊急かつ重点的に市街地の整備を推進すべき地域として国が定める「都市再生緊急整備地域」に指定され、さらに2020年9月には、開発事業等を通じて重点的に市街地の整備を推進すべき地域として国が定める「特定都市再生緊急整備地域」に指定された。同地域で再開発を行う場合は、税制面などでの優遇が可能となるため、数多くの再開発事業が動き出しを見せており、都心の受け皿としての役割が加速している。

「楕円形の都心」のイメージ



参考：広島市都市計画マスタープラン

実際に、広島市中心部では、様々な再開発事業が進むとともに、公共空間等の利活用など、受け皿整備につながる動きが見られる。ここでは、現状の主な再開発事業並びに公共空間等の利活用について整理する。

(1)再開発事業

◆ 旧広島市民球場跡地整備事業「HIROSHIMA GATE PARK」

(2023年3月31日開業)

旧広島市民球場跡地を緑豊かなオープンスペースを中心とした空間とするとともに、都心の新たなにぎわい拠点となるような、年間を通じて多様なイベントが開催できる空間として整備する。実施にあたっては、P-PFI制度を活用し、民間事業者のノウハウを最大限に活用しながら、広島の「顔」となり、若者を中心とする多くの市民や平和記念公園を訪れる観光客を引き付ける、にぎわいとおもてなしの心が感じられるゾーンとして整備する。



◆ サッカースタジアム等整備事業ならびに中央公園広場エリア等整備事業

(サッカースタジアム:2024年2月/中央公園広場:2024年8月開業予定)

新サッカースタジアムは、広島の新たなシンボルとして広域的な集客効果を高めるなど、広島県、広島市全体の活性化につながる施設として整備する。サッカーのための施設にとどまらず、スタンド下を活用したにぎわい機能の導入を進めるなど、多機能化・複合化を図ることで、年間を通じて、幅広い世代の人が楽しめる施設となるように計画されている。さらに、スタジアム横に整備される中央公園広場では、サッカースタジアムと一体となったにぎわいの創出につなげることで、幅広い世代の人や観光客が楽しみ、憩える都会のオアシスとなるよう計画されている。



◆ 広島駅南口広場の再整備等事業（2025年春 開業予定）

広島駅南口広場では、JR西日本が実施する駅ビルの建替えと連携し、路面電車を駅ビルの2階レベルに高架で進入させる駅前大橋ルートを整備するとともに、それにより生まれる空間を活かして、駅周辺に点在するバスの乗降場を集約するなどの広場の再整備を計画している。新しく整備される新広島駅ビルは、広島に新たな賑わいや交流、感動を創出する施設として、ショッピングセンターやシネマコンプレックスなど、多種多様な商業施設やホテル等の導入が計画されている。あわせて、広場を中心に広島駅南口Aブロック・Bブロック・Cブロック、及び広島JPビルディングへのペDESTリアンデッキを設置し、駅自由通路とつながる2階レベルの歩行者ネットワークの構築を目指している。



出典元：JR西日本ホームページ

◆ 基町相生通地区市街地再開発事業

（高層棟及び変電所棟：2027年度 竣工予定／市営駐輪場棟：2029年度 竣工予定）

基町相生通地区市街地再開発事業は、相生通りに面した朝日会館跡地およびその北側の基町駐車場一帯で進められている市街地再開発であり、「広島都心地域」における官民連携のリーディングプロジェクトとして実施される。国際的なビジネス環境の形成、業務機能の高度化に資する高規格オフィスを整備するとともに、国内外からの観光客やビジネス来訪者等の更なる誘客、滞在ニーズに資する世界に通用する良質なホテルの整備が計画されている。さらに、相生通りの道路空間と一体的な利用が可能となるオープンスペースの整備により、居心地が良く歩きたくなるまちなかの沿道空間の形成につなげるとともに、地域のエリアマネジメント団体等と連携しながら、多様な地域活動による賑わいと交流の機会創出を目指している。



(2)公共空間等の利活用

◆ 民地内の開放された空間を活用した社会実験（カミハチキテル）

広島市都心部のまちづくり団体「カミハチキテル」による基町クレドふれあい広場を活用した公共空間での社会実験。空間内に芝生やテーブルを配置するとともに、コンテナ店舗を出店した。芝生やテーブルは社会実験後も常設として残り、都心の新たな憩いの空間となっている。



◆ ひろぎんホールディングス本社ビル1階 トゥモロウスクエア

ひろぎんホールディングス本社ビルの建て替えに伴い、当ビル1階を誰もがいつでも気軽に立ち寄れるにぎわいとふれあいのスペースとして整備。イベントスペースやカフェ、ライフスタイルマーケットなど、誰もがいつでも立ち寄れる空間づくりを行っている。



◆ 紙屋町地下街シャレオの利活用

紙屋町地下街シャレオでは、中央広場を活用した都心のにぎわい創出につながる様々なイベントが実施されている。近年では、2022年7月に「紙屋町ビアケイブ」が開催され、ビールメーカー4社と、地元飲食店によるグルメの販売が行われた。開催期間中は多くのお客様が訪れるなど、都心の賑わいにつながるイベントとなった。また、広島市青少年施設との連携事業である「Youth Festival」やKOI PLACEの野外シネマとの連携企画である「映画と、週末のひととき」映画上映会の実施など、数多くの連携企画も実施されている。

中央広場以外でも広島工業大学の学生による西通りの空き店舗活用検討のためのワークショップの実施や、紙屋町BASEを活用した広島都心会議主催の「学生との意見交換会」の実施など、多様な活用方法を行っている。



紙屋町ピアケイブ



紙屋町BASEの活用

◆ 広島駅前 川の駅(猿猴橋もと)の利活用(広島駅周辺地区まちづくり協議会)

JR広島駅南側の猿猴川河岸の賑わい創出については、2021年10月より、猿猴橋もとの川の駅スペースの有効活用として、地域のまちづくり団体である「広島駅周辺地区まちづくり協議会」による広島駅南口実証実験イベントを開催している。定期的なマルシェの開催やキッチンカーの設置などにより、広島陸の玄関口における、水辺に憩える空間の創出につなげている。



◆ KOI PLACE

JR西広島駅と広島電鉄広電西広島駅の間点にあるKOI PLACEは、ひろでん会館跡地の暫定活用として、広場を中心とする施設が整備されている。西広島エリアに新たな賑わいを生み出すとともに、地域住民や駅利用者の憩い・くつろぎ・交流する場を創出することを目的に、今後進むJR西広島駅周辺のまちづくりを見据えた地域価値の向上を目指す。定期的に開催されるマーケットやマルシェなどのイベントに加え、屋外の芝生空間を活かし、ストリート神楽や野外シネマなどの

イベントも開催される。2022年3月には、都心部と中山間地域をつなぐ連携イベントとして「三次・庄原フェア」が開催され、都心の受け皿としての役割も果たした。



◆ 横川駅周辺での空間の利活用

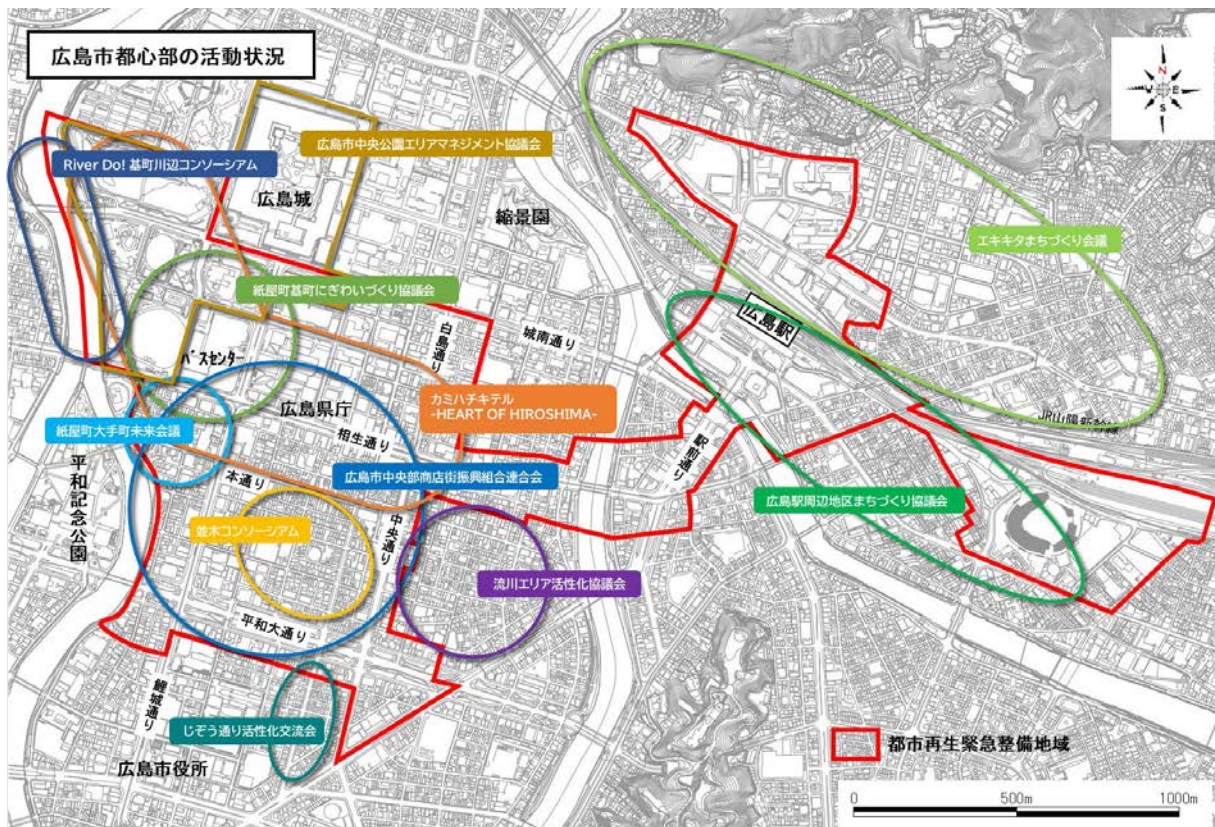
横川地区の個性豊かな商店街が集結し、主に横川駅の空間を活用した地域の活性化につながるイベントを数多く開催している。定期的なマルシェに加え、「横川ゾンビナイト」や「ガワフェス」「横川ふしぎ市」など、常に新しい文化や話題を発信している。2021年12月に開催された「横川クリスマス」では、まちづくり委員会および備北支部と連携し、備北地区のお酒や特産品の販売を行い、都心の受け皿としての役割を果たした。



(3)地域のまちづくり団体(エリアマネジメント団体など)

広島市の中心部においては、近年、地域の価値を向上させ、また新たな地域価値を創造することを目指し、市民・事業者・地権者・行政などにより構成されるまちづくり団体であるエリアマネジメント団体が、数多く設立されている。

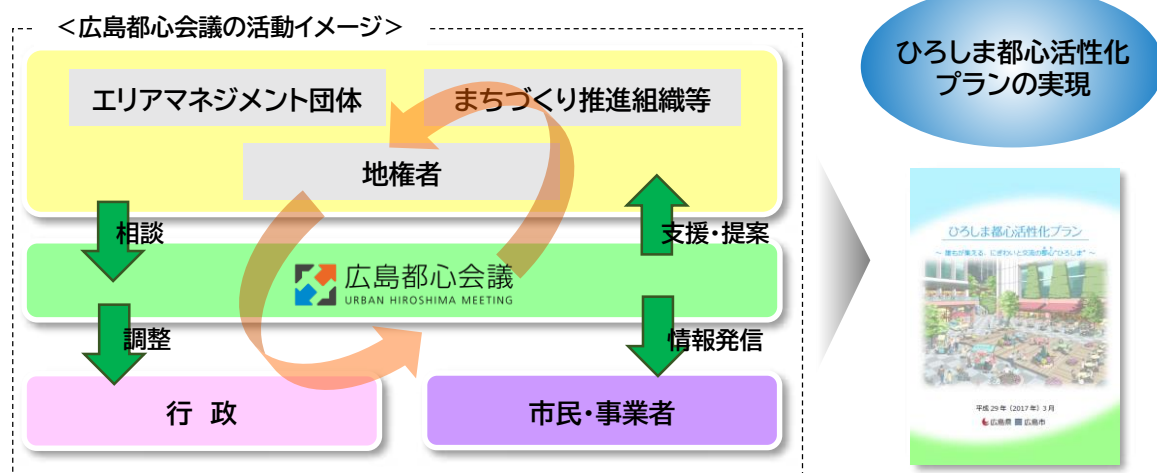
広島経済同友会都市機能委員会の提言書『国際交流平和都市 新生“ひろしま”』を目指して～50年後も輝き続ける広島であるために～」の中でも、エリアマネジメント団体の必要性は謳われており、提言書作成当時の2016年頃に広島市中心部にあったエリアマネジメント団体は1団体であると言われていたが、2018年に開催された「全国エリアマネジメントネットワーク2018 in Hiroshima」の動きなどもあり、現在では、設立を目指しているまちづくり団体なども含めると、**13団体が設立されている**と言われている。各地域での目指すべきビジョンの検討や、パブリックスペースなどを活用した、地域の活性化につながるようなアクションなどの取り組みが行われている。



(4) 広島都心会議

広島市中心部における相次ぐ再開発の動きや地域のエリアマネジメント団体の設立・活動が見られる中で、これらの動きを個別最適ではなく全体最適につなげていく必要がある。先述の都市機能委員会の提言書の中でも、まず優先して動き出しを行う必要のある点として「産官学民が一体となって継続的にまちづくりを議論、推進できる新たな仕組み・体制づくり」の必要性が提言されており、それらの流れを受けて、2021年4月には、地域住民、地権者、民間企業、エリアマネジメント団体等の様々な関係者や行政と連携し、一体となって継続的にまちづくりを推進させるための官民連携のまちづくり推進組織「広島都心会議」が設立された。

現在、エリアマネジメント団体や地権者と行政の中間に位置するプラットフォームとしての役割として双方と連携した一体的なまちづくりを推進する働きを行うとともに、エリアマネジメント団体の連携を図る取り組みや、産官学民の様々な人がまちづくりについて考える場の提供など、広島都心部のまちづくりに対する機運を高め、活性化させる活動を行っており、今後官民連携によるまちづくりの一層の推進が期待される。



広島都心会議 組織構成 ※2023年3月末時点

会 長：棕田昌夫(広島電鉄㈱代表取締役社長)
 副 会 長：部谷俊雄(㈱ひろぎんホールディングス代表取締役社長)
 田村興造(広島ガス㈱代表取締役会長)
 顧 問：湯崎英彦(広島県知事)／松井一實(広島市長)／池田晃治(広島商工会議所会頭)
 理事企業：㈱NTTドコモ中国支社／㈱大林組広島支店／㈱フジタ／㈱三井住友銀行／
 大成建設㈱中国支店／中国電力㈱／三井不動産㈱中国支店／三菱地所㈱中四国支店
 正 会 員：50社 賛助会員：23社 特別会員：2社 オブザーバー：広島県、広島市

II 呉地区

呉地区は、山と海の風光明媚な自然に恵まれ、瀬戸内の美しい島々や多彩な峡谷美の景観は、貴重な観光資源として親しまれている。また、自動車・航空機部品、半導体・発電用設備、造船、鉄鋼、木材、パルプなどを生産する企業が立地し、独自技術や全国的・世界的に高いシェアを持つ企業を有する「ものづくり」のまちとしての特徴も持つ。海軍ゆかりのまちとして「大和ミュージアム」など、特色のある観光コンテンツを持つとともに、近年では公園や道路などのパブリックスペースを活用したマルシェや、地元飲食店を巡りながら各店の飲み物とおつまみを味わうことのできるイベントである「くれバル」の開催など、賑わいの創出につながるイベントも開催されている。

「広島経済同友会 呉支部」とのヒアリングより、当地区では、海軍関係のみならず、日本遺産に認定されている鎮守府や北前船、御手洗地区の町並み、やぶなどの地域に根付いた伝統文化、日本酒やカレーなど、まちの特徴を活かした様々な魅力的なコンテンツがあるため、今後は、これらの魅力的なコンテンツを結び付けた観光コンテンツの造成や、まちづくりや観光の関連団体間の連携を強化していきたいと考えられている。また、Free Wi-Fiなどのハード面の整備については不十分な点が多いため、行政とも連携しながら整備を進めていきたいと考えられている。



写真提供：一般社団法人広島県観光連盟



くれバル 開催風景

Ⅲ 三原地区

三原地区は、穏やかな瀬戸内の海と、緑あふれる山々に囲まれた豊かな自然環境に加え、三原城や新高山城の城跡など、数多くの歴史的な文化財を持つ。また、広島県の空の玄関口である広島空港やJR山陽新幹線、山陽自動車道、尾道糸崎港など、陸・海・空の総合的な交通の要衝であり、商工業都市としても発展している。毎年8月に開催される「三原やっさ祭り」は、多くの観光客が訪れる魅力あるコンテンツであることに加え、瀬戸内海の多島美が楽しめる筆影山や竜王山、紅葉で有名な佛通寺、国の天然記念物の久井の岩海など、恵まれた自然環境を生かした多くの観光コンテンツも所有している。「三原やっさタコ」や「八天堂のくりむパン」に加え、最近では官民連携で「広島みはらプリン」をプロモーションするなど、ジャンルを超えた様々な特産品も人気である。

「広島経済同友会 三原支部」とのヒアリングより、当地区では、以前に比べ、経済界と行政が密接な連携を取り始めている中、三原の中で日本一のコンテンツを構築していきたいと考えられている。有名な観光コンテンツである「三原やっさ祭り」についても、祭りの知名度向上を目指す中で、三原やっさ踊りの担い手や伝承者の不足が課題であるため、地区を超えて祭りに従事したい方を汲み取り、関係人口の創出につなげていきたいと考えられている。情報発信については、三原市がAIを活用したサービス「みはらイベントバコ」により、インターネット上に掲載されている三原の観光イベントや情報を吸い上げる仕組みを構築している。これらの情報を全県的に展開し、Instagram等、個人のSNSと紐づけを行っていききたいと考えられている。



IV 尾道地区

尾道地区は、点在する寺院や尾道水道周辺の歴史を凝縮した景観、緑豊かな丘陵地域から独特の多島美の瀬戸内海地域など、国内を代表する歴史や文化、自然環境に恵まれている。また、造船業をはじめとした製造業や、特色ある産品を生み出す農業、水産物の食品加工業等の地域産業も盛んである。山陽自動車道、瀬戸内しまなみ海道、中国やまなみ街道の整備により、瀬戸内の十字路としての拠点性が一層高まっており、歴史と文化に溢れる島々をサイクリングで満喫できるしまなみ海道をはじめ、新たな魅力と歴史・伝統に育まれた資源を活かした他にはない魅力的な価値を持つ観光事業やまちづくりを推進している。

「広島経済同友会 尾道支部」とのヒアリングより、当地区では、多くの魅力的なコンテンツを持ち、かつ地元の中でその魅力を語れる方も多い。情報発信についても、尾道本通り商店街では、ホームページを作新し、情報提供・発信を行っており、情報の登録は個々の店舗で自由に行えることから、他の媒体への活用など情報の横連携を図ることも可能となった。今後はこの情報を広島県全域や全国に発信していく方法を検討するとともに、12月～2月の観光コンテンツが少ない期間での新たなコンテンツの創出や、夜の時間帯で営業している店舗や宿泊施設の整備等を行うなど、年間を通して魅力を発信できる場所にしていくことで、人口減少が避けられない中で、関係人口や交流人口を増やしていきたいと考えられている。また、まちづくり・人口問題・観光・産業・教育・連携などの包括的な分野の提言を新たに行い、尾道市の魅力向上に取り組んでいきたいと考えられている。



V 福山地区

福山地区は、穏やかな気候と豊かな自然に恵まれるとともに、鉄鋼業を中心に多種多様な製造業が集積しており、多くの上場企業やオンリーワン・ナンバーワン企業を抱えるものづくりに強いまちとして発展している。瀬戸内を代表する景勝地「鞆の浦」や、2022年に築城400年を迎える「福山城」等、歴史・文化資源も多く、多彩な地域資源を活用したまちづくりを進めている。近年では、2004年に福山駅南地域が都市再生緊急整備地域に指定されたことを受け、駅前再生に向けた官民連携の取り組みを実施しており、駅前における広場整備を行う実証実験等を実施されるなど、滞留空間の創出に向けた動きもみられる。また、広島経済同友会福山支部が、2021年にふくやまスポーツパーク構想を提言し、引き続き具現化に向けた協議が行われている。

「広島経済同友会 福山支部」とのヒアリングにより、当地区では、駅前再生に向けた取り組みとして、オープンスペースの創出に向けた計画や、歩道等を活用したマルシェの開催など、ウォーカブルなまちを推進する活動を進められている。また、民間企業が連携して設立したまちづくり会社「株式会社築切家守舎」が、2021年に県内初の都市再生推進法人に指定され、駅前をはじめとした、まちの賑わい創出につながる様々な取り組みを実施されている。一方で、駅前再生につながる様々な動きはみられるものの、エリアマネジメント団体の組成までは至っておらず、今後はそのような団体の組成が必要と感じられているとともに、地域を越えたまちづくりの推進につながる県内の都市間連携を図る取り組みを推進し、オール広島で魅力の底上げを図りたいと考えられている。



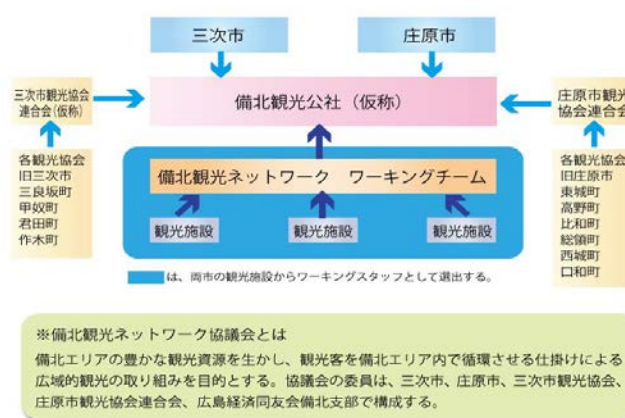
VI 備北地区

三次・庄原地区は、歴史的まちなみや文化的資源、広島三次ワイナリーやトレッタみよし、観光農園などの農業を活かした観光交流施設、みよし運動公園・国営備北丘陵公園等のレクリエーション施設など、住と農が調和した田園景観を形成している。また、国・県指定の自然公園があるなど、中国山地の豊かな自然を有している。

近年ではこのような自然環境を活かした体験型観光プロダクトの開発に加え、歴史的に価値のある古民家を改修した宿泊等の施設の整備が推進されており、新たな地域の魅力発信につなげている。また、広島市中心部にアンテナショップ「比婆屋」を出店するなど、地域の魅力を都心部で発信する動きもみられる。さらに、地域内の連携を図る取り組みとして、三次市、庄原市、両市の観光関連団体により構成された「備北観光ネットワーク協議会」により、観光関連団体の横連携を図るとともに、誘客活動や地域の魅力の情報発信等の役割を果たしている。

「広島経済同友会 備北支部」とのヒアリングにより、当地区では、地域内の魅力が地域の人にとっては当たり前すぎて魅力に感じていないケースが多いため、今後は他地域との連携を行うことで、客観的に地域の魅力を再認識する機会を設けるなどの仕組みづくりが必要であると考えられている。

また、広島県立大学など、学の機能もあるが、卒業後に当地区を離れる学生が多いため、学生とのリレーションを形成する取り組みを行うなど、ファンになってもらう仕掛け作りが必要であると感じられている。情報発信については、備北地域内の食や観光、二次交通の案内を行うコンシェルジュを常駐させる「MaaSステーション」を整備予定としているが、そこで提供できるような、イベントや観光情報が一元化された情報のプラットフォームがないため、そういったツールが必要であると考えられている。交通の面についても、JRと高速バスの両方の情報を一体的に見ることのできる仕組みが必要であると感じられている。



VII 東広島地区

東広島地区は、歴史的・文化的な資源をはじめ、内陸部の山々や、赤瓦の家屋が映える田園風景、瀬戸内海の多島美を臨む海岸線など、豊かな自然環境を有している。また、大学・試験研究機関や先端技術産業が集積しており、学術・産業のまちとしての特徴も持つ。日本酒のまちとしても知名度が高く、特に西条地区は、灘、伏見と並び称される銘醸地として知られており、日本酒を活かした観光コンテンツにも力を入れている。

「広島経済同友会 広島中央支部」とのヒアリングにより、当地区では地域内の横連携が課題と感じられていたが、2020年6月に観光で地域づくりを推進するため、東広島市が中心となり「(一社)ディスカバー東広島」が発足。2022年4月には、観光庁から観光地域づくり法人(登録DMO)に認定されており、ディスカバー東広島を中心に、様々な地域内のコンテンツの開発や地域間の関係者の連携につながっている。具体的な取り組みとして、西条、黒瀬、安芸津にある10の酒蔵で連携して蔵開きを行うなどの動きもみられている。

一方で、DMOによる部分以外の横連携が課題と感じられており、また、各コンテンツについて地域内の発信は見られるものの、地域外の発信が弱い点が課題と感じられている。



©公益社団法人東広島市観光協会



各地域のヒアリングを通じての共通課題の整理

各支部へのヒアリングを実施した結果、大きく3点の共通した課題があることが分かった。この3点の課題に対する解決策を当提言の3つの軸として整理していくこととし、検討を進めていく。

◆ヒアリングを通じて感じられた各地区の抱える課題

呉地区	・既存のコンテンツを結び付けた観光商品造成 ・Free Wi-Fiなどのハード面の整備
三原地区	・三原やっさ踊りなどの地域の魅力の知名度向上 ・観光イベントや情報の個人のSNSとの紐づけ
尾道地区	・地区内の情報の地域外への発信 ・冬季や夜のコンテンツ不足、年間を通じた魅力の発信
福山地区	・エリマネ団体の組成 ・まちづくりの推進につながる県内の都市間連携を図る取り組みの推進
備北地区	・地域の魅力が当たり前すぎて魅力に感じていない ・一元化された情報プラットフォーム
東広島地区	・DMOによる部分以外の横連携 ・観光コンテンツの地域外への発信

◆ 共通の課題について

共通課題 ①

行政・経済界・民間の連携が稀薄

地域での活動団体は多くあるが、横連携ができていない

共通課題 ②

域内での情報収集等は進んでいるが

地域外への情報発信が弱い(できていない)

共通課題 ③

地域のいいものは多くあるが、結びつけができていない

3

まちづくり委員会の具体的活動

～地域間連携のための課題解決に向けた具体的な活動～

まちづくり委員会の活動実績

各支部とのヒアリングなどを通じて確認した「地域の共通の課題」に対する解決策を探るため、まちづくり委員会では様々な具体的な活動を実施してきた。ここでは、当委員会が実施してきたことを整理するとともに、活動を通じて見えてきた、共通の課題を解決するために必要なキーワードについて整理する。

広島市の「良いところ悪いところ」の整理

これまでの、正副委員長会議や委員会を通じて上がった広島市の「良いところ」「悪いところ」を整理し、広島市の都心部と中山間地域をつなぐために必要なキーワードを整理

備北地区をケーススタディとして検討

関係者ヒアリング

広島市の「良いところ」「悪いところ」検討の中で出てきたキーワードをもとに、キーワードごとのステークホルダーとのヒアリング

発信の場の創出

- ・横川クリスマス(@横川駅)
- ・三次庄原フェア(@KOI PLACE)

都心部で中山間地域の食や観光コンテンツ等を購入・体験いただくイベントを開催。継続して自走していくための課題の整理

パネルディスカッション

これまでのイベント等を踏まえて、都心部と中山間地域をつなぐためには、どのような視点が必要かについて検討を行う

仮説の検証

支部ヒアリング

備北地区で検討した「都心部と中山間地域をつなぐ」ための連携策を仮説とし、仮説とのすり合わせ、共通する課題解決のための連携策を探る

シンポジウム

支部ヒアリングを踏まえて、各地域内での都心部と中山間地域をつなぐために必要なものの共有、および地域間連携を行うにあたり、各地域の強みを知る機会として開催

学生との意見交換会

広島県内の大学生による、広島の魅力や広島のマチに必要なものについてのディスカッションを通じて、都心部と中山間地域をつなぐための課題の解決につながる様々な取り組みを提案いただく

広島の「良いところ悪いところ」の整理

広島のマチの現状と課題を把握し、活性化を進めていくにあたっては、まずは広島がこういった特色があるかについて改めて整理する必要がある。そこで、これまでの委員会活動の中で上がった広島の「良いところ」「悪いところ」を整理し、そこから地域間連携のための課題解決につながるためのキーワードを抽出した。

広島の良いところ

- ・ 自然や水辺が豊かで美しい
(美しい公園、緑豊か、まちなかの花壇、河岸緑地の整備)
- ・ 平和の都市、シンボリックな都市
- ・ バランスがとりやすい街
(リアルとバーチャル、街と自然、文化と文明、地方と中央)
- ・ 日本で一番スマートシティ、コンパクトシティになりうるポテンシャルがある
- ・ 「食・住む・働く・遊ぶ」が近接している
- ・ ゴミが少ない
- ・ 街中にアートを感じる場所が多い
(数多くの美術館／アートなゴミ処理場／広島拘置所の壁画)
- ・ 小さなエリアでまちづくりを積極的に進めている(エリアマネジメント団体)
- ・ 豊かな産業、物づくりが盛ん
- ・ 「経年優化」の考えを取り入れていける場所
- ・ 島しょ部、瀬戸内海という資源がある

広島の良いところ

- ・ 建物と街が隔てられており、歩きづらい
- ・ コンテンツはあるのにつなぐ道路や道が悪く分断されている
- ・ 公共交通が複雑でわかりにくい



これまでに上がった意見としては
圧倒的に「良いところ」に関する意見が多い

関係者ヒアリング

広島県の「良いところ」「悪いところ」の検討の中で出てきたキーワードをもとに、それぞれのステークホルダーとのヒアリングを実施。各ジャンルごとの現状と課題を整理した。

(1) 教 育

ヒアリング先：広島市立似島中学校 校長 秋本 貴志 氏(当時)

- ・似島中学校は庄原市の高野中学校と姉妹校提携を結んでおり、1988年から両校の交流が続いている
- ・夏には高野中が似島へ行き、海の体験をメインに実施し、逆に冬には似島中の生徒が高野中に行き、スキーなど雪に関する体験を行っている
- ・交流時にはPTAの方もお手伝いいただくので、地域との交流にもつながる
- ・交流は生徒が毎年楽しみにしており、地域の良さを知るきっかけにもなるので行うべきだが、姉妹校提携等のきっかけがないとマッチングできる機会がない
- ・カリキュラムに組み込めればよいが、大規模校だとカリキュラムが詰まっており、実施できない点が課題



(2)一次産業

ヒアリング先:ファーマーズコレクション 代表 竹内 正智 氏

Agre Lore Lab.(三次の白ネギ農家) 代表 藤谷 祐司 氏

- ・ファーマーズコレクションは、広島県の農家に新しい選択肢となる販路の確立を目指す取組として、広島都心部を中心に開催する野菜市である「ファーマーズマーケット」などの取り組みを実施している。
- ・Agre Lore Lab.は三次市の白ネギ農家。ファーマーズコレクションをはじめ、広島都心部で開催されるマルシェに数多く出展。また、六次産業化への取り組みも行っており、自社圃場にて栽培・加工・デザインを行った「ネギ油」などを販売している。
- ・農業を産業として発展させなければいけないという認識を持っており、生産するだけでなく、しっかりと「売る」ことをしていきたい
- ・消費者と生産者がつながる機会は重要と考えており、マルシェなどを行っているが、都心部との交流が少ないため、都心にニーズがあるのかが分からない。また、地域間の連携が「いいこと」であることは分かるが、「つなぐ」ことはお金にならない
- ・農業に関して、憧れてもらう職業にならないといけない
- ・今後もファーマーズマーケットなど、消費者とつながれる機会を大切にしたい



(3)観光

ヒアリング先:NPO法人ほしはら山のがっこう 事務局長・ふるさと自然体験塾長

浦田 愛 氏

- ・ほしはら山のがっこうは、三次市の廃校となった木造校舎「三次市立上田小学校」を一部改装した、豊かなふるさとに包まれた交流宿泊施設。
- ・年間を通して「ふるさと自然体験塾」を開催。遊びをとおして、自然と人のつながりを感じられる取り組みを実施している。
- ・「ふるさと自然体験塾」など、地域の方と関われる体験プログラムを実施しているが、中山間地域に都心部の親子をどう取り込めるかが課題
- ・場所だけではなく人に会いに来てもらうことを目的としている
- ・地域間の交流が生まれると、受入側の地域にとっても、地域が変わり活性化する。そういう意味では、双方の交流はお互いの成長になる「共育」と言える
- ・地域間をつなぐ役割は儲からない。つなぎ役の人・組織が整備され、コーディネートしてもらえると広く広報等もできる
- ・中山間地域の魅力を未来につないでいく活動をしていきたい



(3) デジタル化・観光(ワーケーション)

ヒアリング先: 株式会社peekaboo 代表取締役 小村 佳子 氏

- ・株式会社peekabooは、広島の子育て情報を発信するメディアを運営している。子育てをしながら働ける施設として、広島市内にサテライトオフィスを整備するとともに、ワーケーションや庄原の観光や地域情報を発信するコンテンツ作成の拠点として、庄原市口和町にもサテライトオフィスを整備している。
- ・整備にあたっては、口和区長に非常にお世話になった。また、庄原で「せとうち古民家ステイズ Hiroshimaこごこ森」を運営している方や、三次の白ネギの農家の藤谷さんにも畑を教えてもらうなど、様々な方にご協力いただいた。
- ・今回の件を踏まえて、都心部と中山間地域をつなぐためにはキーマンが必要と感じている。ただ、このような方は、半ばボランティアで頑張っている。そういう人がいなくなった場合、持続可能でなくなることが課題。そこで、金銭面や取り組みに対する表彰など実施していることが認められることが必要。
- ・都心部と中山間地域をつなぐ人にお金が入ってビジネスになる体制を作ることが必要



発信の場の創出

都心部の受け皿を活用し、「農業」「食」「観光」等の中山間地域の魅力を発信する取り組みとして、地域と連携したイベントを実施。実際のイベントを通じて実施した効果や課題を把握するとともに、持続可能な開催に向けて必要となる点などについて整理を行った。

I 横川クリスマス

開催日時:2021年12月18日(土)12:00~20:00

開催場所:JR横川駅前広場

出店者等:広島三次ワイナリー、山岡酒造、美和桜酒造、備北交通株式会社

【イベント総括】

- ・来場者は地元の方が多かったが、都心部の受け皿で各地域のものが買える・体験できることはよいという意見を多くいただけた
- ・売り上げも想定を上回るものであり、出店者にとっても一定の効果があった
- ・三次のワインや日本酒を初めて飲まれる方も多く、コンテンツを知っていただくきっかけとなったとともに、当イベントがきっかけとなり、実際に備北地区へ足を運ばれる事例も出ており、都心部で魅力を発信することが、実際に現地への誘客につながる可能性も分かった
- ・一方で、このような取り組みを持続的に実施していくにあたっては、ヒトやカネの課題があり、その課題解決策が必要であるとともに、コンテンツがマンネリ化しないようなブラッシュアップも必要であることが分かった
- ・コンテンツの発信に合わせ、公共交通の紹介等も実施し、地域内でのコンテンツだけでなく、地域訪問するための手段の発信を行うことで、次回以降の訪問意欲の醸成にもつながった

【来場者からの主なご意見】

イベント全般

- ・都心のイベントで中山間地域のものが買えるのは特別感があってよい
- ・三次ワイナリーにはよく行っているが、都心で飲める場所があるのは嬉しい
- ・イベントは知っていたが、三次ワイナリーや日本酒が出展されるのは知らなかった
- ・三次ワイナリーのアクセスが分かったので、今度実際に行ってみようと思う

どのようなものが出店されれば良いと思うか

- ・野菜などの生鮮食品
- ・お酒
- ・その場で食べられるもの
- ・地元の人気店の特別出店



II 三次庄原フェア

開催日時:2022年3月13日(日)11:00~16:00

開催場所:KOI PLACE

出店者等:広島三次ワイナリー、山岡酒造、美和桜酒造、備北交通株式会社、庄原市、三次市観光協会、庄原DMO、長岡商事株式会社、株式会社敷信村農吉、エイコーズ、しょうばらゆめさくら、道の駅たかの、JAL

【イベント総括】

- ・来場者は己斐地区にお住まいの方が多かったが、中には大阪や山口からの観光客の方も見られた。また、立ち寄った方の多くが一つの店だけでなく複数店舗を巡り、楽しみながら買い物をされていた
- ・出店者アンケートを見ると、都心部の場を活用したイベントの必要性は理解をされつつも、出店料やイベント対応者の人件費等をハードルだと感じており、継続的な実施のためには「ヒト・カネ」の課題解決が必須であると分かった
- ・開催場所が交通結節点ということもあり、偶然通りかかった人がイベントに参加される事例が多く見られるなど、多くの人が通過する場所での開催が望ましいといった、場所の重要性を感じることができた

- ・出店者の多くが広島市内に三次・庄原の魅力をPRしたいという考えがあることが分かった。当委員会では「住民等のシビックプライドの造成」も「都心部と中山間地域をつないでいく」ためには必要な要素だと考えているため、考えが合致していることが分かった
- ・今回のようなイベントをスポットで終わらせるのではなく、課題を解決しながら継続的に実施していくことが重要
- ・都心部と中山間地域での相互の魅力を体験する機会の創出も必要
- ・担当者レベルでの交流を恒常的に行い、実情に即した連携プラン等の確立を考えていくことで「つなぐ」ための課題解決の方法も見えてくる可能性がある

【来場者からの主なご意見】

イベント全般

- ・都心部で中山間地域でしか買えないものを買える「特別感」は同地域への訪問意欲にもなる
- ・車で行くことが多いため、お酒等のコンテンツはこれまで良いとは思っても手が出せなかったもので、非常にありがたい。ぜひこういった取り組みを続けてほしい
- ・電車からイベントが見えたので立ち寄った。宮島観光の前にふらっと立ち寄れる場所があるとは知らなかったが、とても楽しい。遠方の人間なので、普段は楽しめない商品を今日のように気軽に楽しめるのはありがたい。自身が住んでいる地域では地域で連携したイベントはあるのかもしれないが、良く知らない。いい取り組みだと思う
- ・やはり特産品は現地で買いたい思いもあるが、今日は生産者等の方から直接お話を伺いながら購入ができたのでとても良かった
- ・また来たいと思えるようなイベントを今後も是非実施してほしい

どのようなものが出店されれば良いと思うか

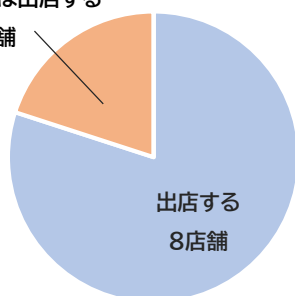
- ・日本酒
- ・比婆牛(串焼きなど、調理済みのもの)
- ・新鮮な野菜、漬物、地元の総菜
- ・地元の特産品

【出店者アンケート】

Q 場の提供があった場合、次回も出店するか？

条件によっては出店する

2店舗



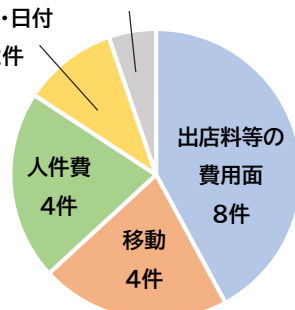
【「条件によっては出店する」を選択した理由】

- ・出店料等の負担が大きくなると出店が難しい
- ・期限付酒類販売免許の申請と、車の置き場所

Q イベントに出店する上でハードルに感じる点(複数回答可)

曜日・日付 2件

その他 1件



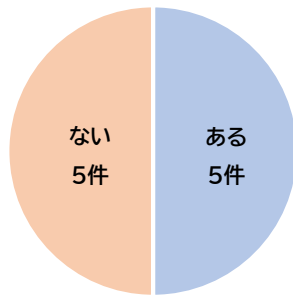
【「その他」を選択した理由】

- ・搬入出経路や会場と指定駐車場までの位置
- ・野外でブースやテント等での販売であれば雨天時のレイアウト

Q こういうイベントを実施してほしいという要望

- ・いろいろなタイプのイベントに参加したい
- ・広島県道の駅フェア・ブランド肉を使ったフェス
- ・郷土芸能を取り入れたフードイベント
- ・体験型観光を実演できるようなイベント
- ・庄原オンリーフェア
- ・酒、カフェ、逸品の集まるイベント
- ・今回のような、公共交通機関近くでのイベント
- ・体験型イベント、テーマ設定(ミニ酒まつり、肉まつり、スイーツフェスティバルなど)
- ・今回のようなイベント

Q 都心部でのイベントの出店経験



【「ある」と回答した店舗の具体的なイベント名】

- ・ひろしまフードフェスティバル
- ・芸備線マルシェ
- ・横川マルシェ
- ・広島駅マルシェ
- ・ひろしま夢プラザ
- ・庄原里山マルシェ

Q 都心部と中山間地域の連携が必要だと思う理由

- ・特産品、食を通して都心部からの往来が期待できる
- ・過疎化が進む中山間エリアの魅力を発信し、移定住・誘致へつなげる
- ・少子高齢化、人口減少が加速する中で、人口の多い都心部との交流は不可欠。また自然豊かな中山間地域から新鮮な野菜や果物、それらを使用した加工品を都心部に届ける役割があるため
- ・中山間部へのアクセスのハブとなることが多く、多くの観光客を潜在させていると期待できるため
- ・田舎は人口が非常に少ない
- ・庄原市内の方は多くの自然や昔からの伝統を当たり前と感じており、魅力を分かっていないため、都心に住まれている方からの目線で庄原の魅力を発信してほしいため
- ・都心の方たちにも知ってもらうことの重要性
- ・交流人口の活性化に必要。中山間地域だけの自立は難しい。都市部との連携で生き残りを図る
- ・広島市内からの観光客を呼び込みたい

Q 都心部と中山間地域が連携するうえで、こういったことが課題か(主な意見抜粋)

- ・スポットで終わらないようにするためのイベント等の継続性
- ・物理的な距離等の物流コスト
- ・中山間地域からの情報発信と都心部での受け皿の確保
- ・都心部からの集客を目的とした三次庄原での二次交通の充実
- ・広域連携組織による恒常的な担当者レベルでの交流
- ・イベントで引き付けて、あとで田舎に来ていただくといった動線
- ・距離と交通手段
- ・情報、人脈
- ・都心部にはない悩みや課題をどのように捉えて全体として考えていくか
- ・お互いのよいところ、魅力を体験する機会の創出
- ・教育・自然・一次産業・レジャー等の中山間地域の強みにより、いかに都心部を引き付けられるか

パネルディスカッション

関係者へのヒアリングや発信の場の創出などにより整理した考えに基づき、都心部と中山間地域をつなぐための連携策の方向性や課題を明確にするため、都心部と中山間地域をつなぐためのステークホルダーに登壇いただき、ひとつのテーマに基づいてディスカッションを行うパネルディスカッションを実施した。

【テーマ】

広島県の都心部と中山間地域をつなぐためには

【登壇者】

- ◆ NTTアーバンバリューサポート(株) 中国事業部 地域共創部門長 渡部 宏昭 氏
(Park-PFI事業等、都心の受け皿整備業務を担っている方)
- ◆ 広島電鉄(株) 執行役員地域共創本部長 末松 辰義 氏
(広島都心部の行政と民間の中間組織の事務局を担っている方)
- ◆ (株)peekaboo 代表取締役 小村 佳子 氏
(中山間地域でデジタル技術を使い都心部の受入環境整備を行っている方)
- ◆ NPOほしはら山のがっこう 事務局長・ふるさと自然体験塾長 浦田 愛 氏
(中山間地域で地域の方々と連携しながら親子体験プログラムを実施している方)
- ◆ Agre Lore Lab. 代表 藤谷 祐司 氏
(都心部の受け皿を活用しつつ、中山間地域で農業を行っている方)
- ◆ (株)広島三次ワイナリー 代表取締役 山縣 隆 氏
(三次地区で観光、食関係の事業を担っている方)

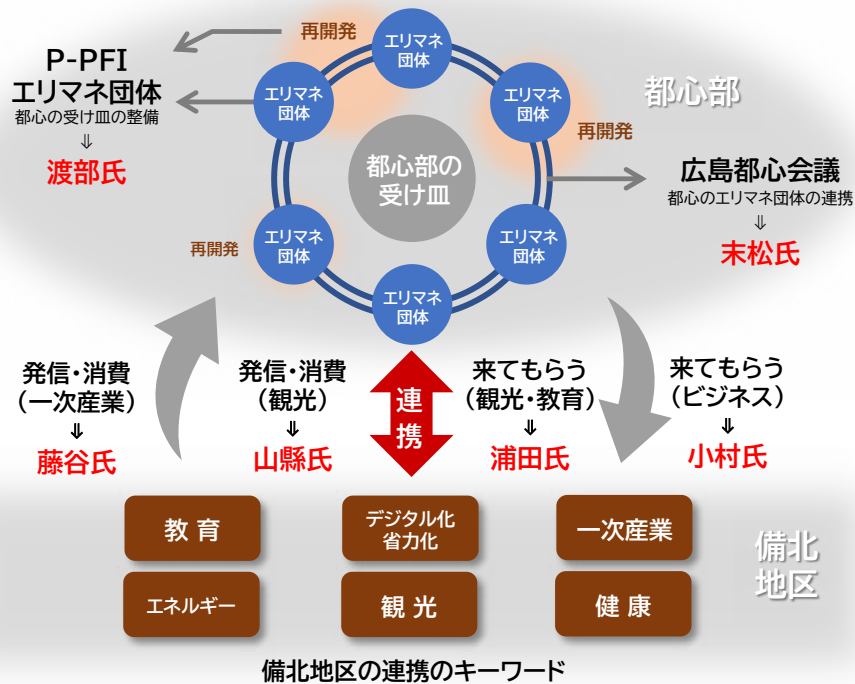
【ファシリテーター】

公益財団法人 中国地域創造研究センター

吉原 俊朗 氏



【各登壇者の立ち位置】



【各登壇者からのご意見】

渡部氏



- ・都心部でのイベント実施の際に、中山間地域側の「この人・組織に言えば出店者を紹介してもらえる」といったつながりがほしい
- ・都心部はプレイベントで本番は中山間地域に足を運んでもらうというスキームができればよい

末松氏



- ・世代によって適切な発信の仕方は違う。いかに知ってもらおうかという取り組みを進めていくことがつながりになっていく
- ・都心部の横のつながりと、中山間地域の横のつながりをクロスさせるような取り組みができればよい

3. まちづくり委員会の具体的活動

小村氏



- ・イベントのターゲティングは大切
- ・こどもを連れてどこかに行くのは大義名分がある
- ・ビジネスは継続に向けた第一歩。無償でつなぎ役を買って出してくれる人たちにきちんとお金が入る、ビジネスになる仕組みの構築が必要
- ・イベントだけでなく、常設でつながる場も必要

浦田氏



- ・中山間地域の魅力はギリギリの状態できり立っている（農業、景観の問題など）
- ・中山間地域にはたくさんいいものがあるが、デザイン力や売る能力が弱い。苦手な部分を都心部側に補ってもらう関係性があればよい

藤谷氏



- ・認知してもらうために都心部の受け皿を活用している
- ・中山間地域側も都心部と手を取り合える相手にふさわしいような取り組みを行っていく必要がある
- ・「どういった状態」をもってしてつながっているのか、を都心部、中山間地域両方で考えていくことが大切

山縣氏



- ・生産者が作ったものを伝えるひとつの情報発信の場が都心部の受け皿
- ・イベント出店した人たちの中でのコミュニティが形成でき、それがお客様への情報の”つなぎ”になる
- ・都心部との窓口になる中山間地域の関係者をまとめる存在も必要

【まとめ】

各登壇者からの意見をもとに、都心部と中山間地域をつなぐために必要なポイントを整理した。

POINT①

各地域内の「つなぎ役」とそのつなぎ役同士をつなぐコミュニティが必要

各地区内でコンテンツや情報を共有するためのコミュニティの形成が必要。コミュニティ形成のためには、それらを取りまとめる「つなぎ役」が必要で、各地区のつなぎ役同士の連携により、地域間の交流の創出、相互的な発展につながる

POINT②

コミュニティやつなぎ役をビジネスとして成り立たせる仕組みが必要

コミュニティやつなぎ役を持続可能なものとして成り立たせるためには、これまで無償・好意で提供されてきたものをいかに魅力的なコンテンツであると発信し、ビジネスや投資につなげていくかが重要となる

POINT③

中山間地域の持つコンテンツなどの情報を都心部側で継続的に提供できる仕組みづくりが必要

中山間地域での共通の課題として、コンテンツを発信する広報機能が弱い点がある中で都心部を情報のハブとして、各地区の魅力を発信できるような受け皿や情報発信の仕組みづくりが必要である

POINT④

各地域の魅力発信の「場」として、マルシェなどの暫定的な場と常設の場が共に必要

地域の魅力を発信するためには、魅力を披露するための場が必要である。近年は都心部でのパブリックスペース等を活用したマルシェの開催なども多く見られるが、そういった場が持続的に実施できるような、ヒトモノカネの課題が解決できるような体制づくりが必要となる。また、マルシェのような暫定の場だけでなく、常につながっているための常設の場について観光やビジネス的要素も踏まえながら検討していく必要がある

学生との意見交換

地域の魅力の深掘りや地域間連携を行うにあたり、様々な立場からご意見をいただくことが必要であると考え、その取り組みの一環として、広島県内の大学生による広島の魅力や広島のまちに必要なものについて意見交換を実施した。学生からは課題解決に向けた具体的な方策案を提案いただいた。

【検討テーマ】

- ◆ 都心にあるものや有名どころ(原爆ドーム、宮島など)以外で、私が思う「ひろしまの“推し”」
- ◆ これからも広島に住み続けるときに、「広島のまちなかにあったらいいな」と思うもの

【参加大学】(50音順)

叡啓大学／県立広島大学／広島市立大学／広島経済大学／広島工業大学／広島修道大学
 広島女学院大学／広島大学／広島文教大学／安田女子大学

【提案された方策案】

方策 ① 広島版大人のキッズニア

広島のあらゆる魅力の場を発信する場(魅力を体験できる場)の創出

①ホテルを起点としたツアーパックの販売

- ・広島県内の様々な種類の「酒」に着目。ホテルで西条の日本酒や三次ワイン、戸河内ウィスキー、桜尾ジン等のお酒の容器を製作し、容器を持って実際の地域に出向いて、お酒を入れてもらう
- ・広島の手と山でのアクティビティに着目。ホテルで各種アクティビティの受付、講習、水着やパラソル等のレンタルを行うなど、準備はすべてホテルのサービスで済むシステムを構築する
- ・竹原の竹細工を活用し、観光とフォトツアーを実施。ホテルで竹細工の写真フレーム作りを行い、フォトツアーで撮影した写真を飾れるようにする
- ・安芸高田市の豊かな自然と歴史の観光を行うとともに、ホテルでは地域文化が育んだ神楽を鑑賞
- ・福山ではバラや鞆の浦でのツアーを実施し、ホテル持ち帰ったバラや果物をジャム等に加工するワークショップを開催する

②広島を知る常設コーナー

- ・折り鶴再生紙を用いたポストカードの製作。未来の自分に手紙が送れる。
- ・熊野筆を活用したメイク教室、書道教室
- ・広島の名産品や郷土料理が味わえるスペースや北広島町や尾道などのクラフトビールが好きな量飲めるビールサーバー、地酒の飲み比べスペース
- ・ホテルを併設し、施設内で楽しんでもらった後にすぐにホテルに宿泊できる動線を整備

方策② 地元の花が心の癒し

各地域での花まつりの開催

- ・広島県内では、各市町の花が制定されている。その特徴を活かし、各市町の花を活用した花祭りを各市町で実施する
- ・自分の推しの色を決めて、ドライフラワーでのブーケ制作や押し花制作(ワークショップ)
- ・子供たちに、花と触れ合っていただく機会を創出することで、地域の花に愛着を持ってもらう
- ・花を「割引券」にして、花を持っている人は、市内の飲食店や小売店で割引や特典を受けることができるようにする
- ・まつりの開催を通じて、人と人とのつながりを生み、新たな可能性を生み、地域活性化につなげる

方策③ 紙屋町シャレオの今後について

シャレオの空き店舗を含めた空間の利活用により、ただ通過するだけの場所から、滞在してもらえる場所にする

①通りごとのテーマを決めそれぞれの一体感を作る取り組みの実施(暖簾の設置)

- ・東西南北の各通りにテーマカラーを持たせるとともに、各通りの店舗にはテーマカラーに沿った暖簾を掲出する
- ・暖簾のデザインは、地元の小、中学生とシャレオの事業者が協働でデザインを考えるワークショップを実施してデザインしていくことで、愛着を生む

②コンセプトホテル(カプセルホテル)の整備

- ・「音楽」「スポーツ」「映画・漫画」「サウナ」の4つのコンセプトに基づくホテルを整備する
- ・一つの共通するキーワードに沿ったコンセプトホテルの整備により、同じ目的を持った利用者の憩いや交流の場に繋がる
- ・映画、漫画については、広島に関する書籍が数多く発行されていることもあり、そういった書籍を知っていただくきっかけとすることで、広島の歴史や文化の発信の拠点とする
- ・サウナについては、若者をターゲットに、近年のサウナ需要に対応した施設として整備する

方策④ 広島都心に住む人が広島を語れるように

広島県民に広島を好きになってもらい、広島について日本全国に語ってもらうために、広島ファンを増やす取り組みとして、広島の路面電車を活用した取り組みを実施する

①PHOTO TRAIN

- ・電車を活用した前撮り(七五三、成人式、結婚式)などの写真撮影に加え、ウェディングトレインなどより一体となった取り組みを実施する

②MUSIC TRAIN

- ・電車の車内空間を活用したライブの実施などにより、非日常の空間を創出する
- ・広島県の演奏者の活躍の場を作ることで、地域の人とコミュニティを作ることが可能とする
- ・「路面電車のまち」、「活気のあるまち」というイメージの植え付けを行うとともに、「音楽のまち」という新たなイメージにもつながる

方策⑤ ジャンル分けされた飲食街、川辺の昼屋台

広島の特徴である川辺空間を存分に活かしきれていないと感じる中で、「水の都ひろしま」としての認知度を上げるべく、河川が多い特徴を活かした魅力のある場所を創造する

①川辺を活用したマルシェの実施

- ・川と街、そして人をつないで、新しい集いの場を作るべく、毎週週末に開催
- ・毎月開催し、常設部分(名産品・フリマ)と変更部分(テーマに沿った店の出店)を設ける
- ・マルシェでは、古本、雑貨に加え、広島県内の各地域の名産品、野菜、果物が購入、または食べ歩きができる場所を整備する
- ・ペットも楽しめるような環境づくり(水飲み場、リードフックなど)
- ・花見やクリスマスといった、季節に応じた内容も反映させる



②屋外デスクワーク&くつろぎ休憩スペース

- ・ハンモックやビーチチェアなどを設置するなど、自然を感じながら休憩、作業ができる落ち着いた空間として整備する

方策⑥ 並平(並木通り、平和大通り)歩いてみんさい！

本通り、紙屋町・八丁堀の利用者を並木通り、平和大通りに誘導するために、賑わいの創出に係る取り組みを実施する(「テーマ:歩行者天国×朝市・夜市」)

並木通り

①歩行者天国×朝市

- ・その日とれた新鮮な魚から、広島伝統工芸品まで様々なものを販売(例:高知の朝市)

②歩行者天国×夜市

- ・屋外で楽しめるビアガーデンを開催
- ・人工芝にテーブルを整備するなど、憩いの空間を創出する(例:神戸の中華街)

平和大通り

- ・計画中の自転車専用道路について、専用道路を蛍光に着色する
- ・緑地である環境を活かし、テントを常設の店舗を整備するとともに、サブスク利用が可能なポップアップストア的な使い方も可能とする



方策⑦ 朝から夜まで家族で過ごせる、空き家を活用したビル型農地の提案

LED農園を活用した、農業体験ができるビル農地を整備することで、自然と共存する広島都心のシンボルとする。

- ・建物内には憩いの場を創出し、ビル内で栽培した野菜の販売等を行う
- ・野菜の栽培空間では収穫体験等を実施する
- ・小学生が作物の栽培から収穫、料理までの過程を体験できる取り組みを実施する
- ・ICTを活用した「スマート農業」の導入により運用の省力化を図る

シンポジウム

広島県内の各地域の現状と課題を把握するために実施した各支部とのヒアリングを踏まえ、地域間連携を行うために、各地域のまちづくりに関わる関係者が一堂に介し、各地域の現状と課題を共有するとともに、オール広島でのまちづくりを実践する機運醸成を図ることを目的とした、シンポジウムを開催した。

【テーマ】

ひろしまのイイモノ再発見 ～オール広島でのまちづくり～

【登壇者】

- | | |
|----------------------------------|---------|
| ◆ 広島経済同友会 呉支部長 | 武田 保介 氏 |
| ◆ 広島経済同友会 三原支部長 | 上田 隆政 氏 |
| ◆ 広島経済同友会 尾道支部 尾道を考える委員会 委員長 | 高垣 孝久 氏 |
| ◆ 広島経済同友会 備北支部 観光振興委員会 委員長 | 奥井 智裕 氏 |
| ◆ 広島経済同友会 広島中央支部 まちづくり・観光委員会 委員長 | 大下 英利 氏 |

(広島経済同友会 福山支部は当日欠席のため、現状と課題を事務局より代読)

【ファシリテーター】

一般社団法人広島県観光連盟 チーフプロデューサー 山邊 昌太郎 氏



【各登壇者からのご意見】

武田氏



- ・呉地区ではこれまで各組織が単独でしか取り組みを行っていないことが課題であったが、近年は連携した取り組みも行われている
- ・連携のためには、熱意のある人が必要。その人の熱意に周りものせられて、物事は進んでいく

上田氏



- ・地元に住んでいる次の世代が、地元の良さを知り、再発見できるきっかけが必要。そのためには、思いついたことをまず実行し、その中で一つでも実現につながればよい
- ・連携とは情報共有。お互いで何がやりたいのか腹を割って話しながら、その中で知恵を出し合って、それぞれができることを考えていく。情報共有しながら、顔が見える連携を行っていけばよい

高垣氏



- ・連携のためには「ワイガヤできるコミュニティ」が重要であり、そのためには移住者や若い人が好きなことがいえる寛容性が必要
- ・連携していくための前提として魅力的な個の力が必要。お客様が何を求めており、訪れたいくなるような魅力的なコンテンツと、そのコンテンツをどうつなげていくかが必要

奥井氏



- ・点でなく面で連携していくことが必要
- ・都心部で整備していただいた受け皿を活用して、そこに地域として束になって魅力を伝えていくような取り組みが必要
- ・一方で都心部から各地域にきていただくといった相互的な交流が必要

大下氏



- ・事業者である前に、ユーザー目線から何が必要なのかを考えることが必要
- ・同じコンテンツでも、連携により魅力を幅広く伝えることができる。東広島でも別々に実施していた酒蔵開きを連動して実施している
- ・酒という地域間を超えた魅力的なコンテンツを活用して、今後、地域内の連携をどう地域外に発信していくかが必要

【まとめ】

各登壇者からの意見をもとに、都心部と中山間地域をつなぐために必要なポイントを整理した。

POINT①

地域内連携・地域間連携のためには「火付け役」が必要

連携を行うためには、やる気のある当事者である「火付け役」が必要。やる気のある火付け役を中心として、その火が燃え続け、やる気のある人同士がつながっていくことが重要

POINT②

地域内連携・地域間連携のためには「青臭い議論」が必要

連携を行うためには、どういう姿を目指すのか、何が必要なのかなどについて、青臭い議論を行うことが必要。そこで出てきたやりたいことを実現するために連携していくことが重要

POINT③

連携の前提は「よいもの」をつなげること

連携とはダメなものの寄せ集めではなく、よいものをつなげること。そのため、連携するためには、個々のコンテンツが魅力的である必要がある。訪れる方は市町自体に行きたいのではなく、その場所の「モノ」「コト」「ヒト」を求めている。その良いものの集合体がよりよい「ひろしま」につながっていく

POINT④

自分たちのまちやコンテンツに「誇り」を持つこと

観光とまちづくりは関連性があるが、ともに「自分たちのまちに誇りを持つ」ことが必要。誇りを持つことで、よりまちを良くしようとする動きが生まれ、まちがよくなるといった好循環が起こる

4

地域間連携のためのキーワード

～地域間をつなげていくためのキーワードと目指すべき姿～

具体的な活動を通じて見えてきたキーワード

まちづくり委員会の具体的な活動を通じて見えた課題や方向性から、地域間をつなげていくために必要となるキーワードを整理した。また、あわせて各キーワードにおける目指すべき姿を、これまでの活動であがった意見をもとに整理した。

地域間連携のためのキーワードと目指すべき姿

1 つなげていくのは「人」だ

各地域内に地域の多種多様な魅力を取りまとめる「つなぎ役(組織)」がいて、かつ地域間でもその「つなぎ役」が連携できている状態

- ・ 地域間をつなぐ役割は儲からない。つなぎ役の人や組織が整備され、コーディネートしてもらえると広く広報できる(関係者ヒアリング)
- ・ 各地域の魅力を取りまとめる地域内の「つなぎ役」と、そのつなぎ役同士をつなぐコミュニティが必要(パネルディスカッション)
- ・ コミュニティやつなぎ役がビジネスとして成り立つ仕組みが必要(パネルディスカッション)
- ・ 地域内連携・地域間連携のためには「火付け役」が必要(シンポジウム)

2 つなげていくのは「ソフト(アクション)」だ

ソフトの持続可能な実行のための障壁となる“ヒトモノカネ”の問題が解消され、様々な場所でアクションが連動して起こっている状態

- ・ 地域の魅力発信のために、都心部の場を活用したイベントは重要(発信の場の創出)
- ・ イベントを自走するためには、「ヒト・カネ」の課題解決が必須(発信の場の創出)
- ・ 地域内連携・地域間連携のためには「青臭い議論」が必要(シンポジウム)
- ・ まずは地域内のイイモノを知ることが必要(パネルディスカッション・シンポジウム)

3 つなげていくのは「場」だ

地域内・地域間をつなぐマルシェなどの場が継続的に提供されるとともに、オール広島魅力を発信・提供する常設の場所も整備され、そこに県内外の人が常集積している状態

- ・ 農業を産業として自立させるためには、都心部の受け皿を使い、消費者と生産者がつながる機会が重要(関係者ヒアリング)
- ・ 各地域の魅力発信の「場」として、マルシェなどの「暫定的な場」と「常設の場」が必要(パネルディスカッション)

4 つなげていくのは「発信」だ

官民が連携し、地域や市民も巻き込んだ「一元化された情報プラットフォーム」によりジャンル別や現在地に対する必要な情報をリアルタイムに提供できている状態

- ・ 中山間地域の持つコンテンツなどの「情報」を都心部側で継続的に発信できる仕組みが必要(パネルディスカッション)

5 つなげていくのは「教育(共育)」だ

地域を越えた学校間の交流が行われているとともに、観光や遊びなど体験しながら地域の魅力を学ぶ様々なコンテンツが整備されるなど、様々な形の教育の場が創出されることで、若い世代にも各地域の魅力が浸透している状態

- ・ 地域間の学校交流は地域の良さを体験できるいい機会になるが、カリキュラムの都合で実施できていない(関係者ヒアリング)
- ・ 好循環を起こすために、地元の人誇りを持てるための教育(シンポジウム)

5

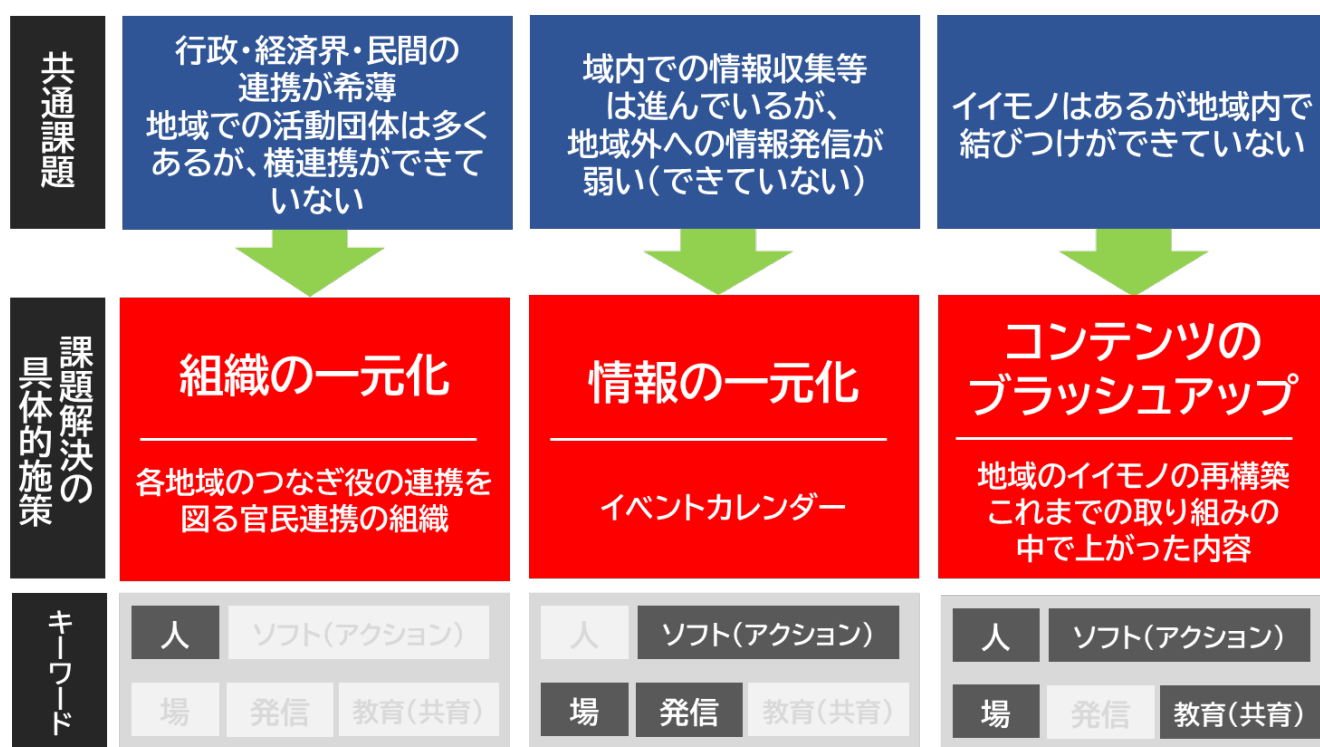
課題解決のための具体的施策

～地域間をつなげていくための3つの提言～

地域の共通課題に対する3つの具体的解決策

第2章であげた各支部へのヒアリングを通じて明らかになった3つの共通課題に対し、第4章で検討した地域間をつなげていくための5つのキーワードに即して、課題解決のための具体的な施策を整理した。その結果、地域間をつなげていくための具体的施策としては「組織の一元化」「情報の一元化」「コンテンツのブラッシュアップ」が必要であると整理した。

以上3点を地域間連携により「オール広島」で元気なまちを目指すために必要なものとして捉え、それぞれの解決につながるための具体的施策について提言する。



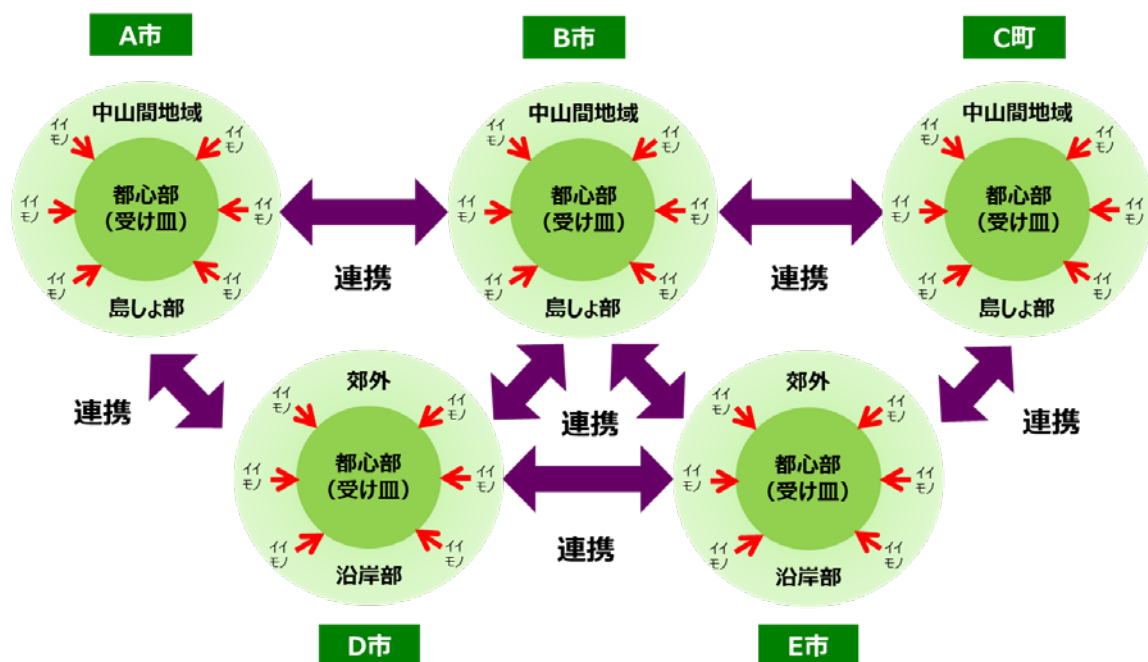
提言1 組織の一元化

各地域内の「つなぎ役」が一堂に介し 地域間の連携を促進させる 官民連携の全県的な組織の整備

各地域における様々な魅力を連携させるために、地域内の横連携を図ることのできる仕組みづくりが必要である。備北観光ネットワーク協議会や各地域のDMOなど、現在、そのような組織が整備されている地域もあるが、まだそのような組織体がない地域でも、整備を推進していくことが望まれる。

また、地域内のみならず、地域間の横連携を図れる組織体も必要である。これらの組織が連携することにより、全県的な情報や人脈のつながりが生まれ、各地域でのコンテンツの相互発信が可能となり、その結果、地域全体の活性化につながる事が期待される。

現在の各地域内の連携状況を改めて整理したうえで、地域間をつなぐ組織の整備が望まれる。さらに、各地域で整備された受け皿を活用し、地域間についても連携する仕組みづくりが構築され、各地域内で他の地域も含めたイイモノが発信されていることで、オール広島で地域の活性化が図られている、といった姿が望ましい。



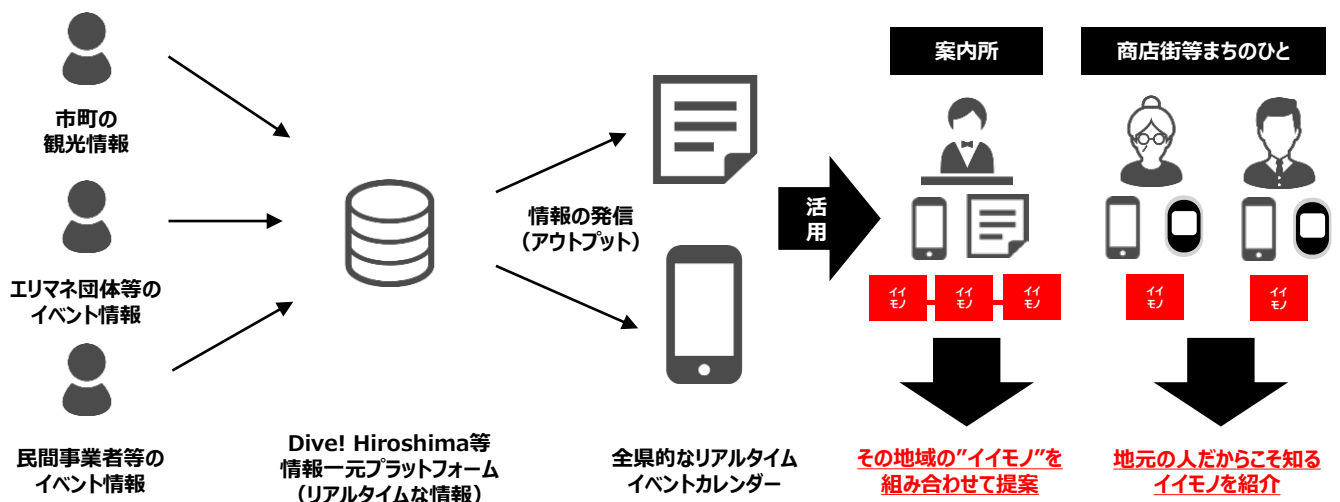
提言2 情報の一元化

広島県全域の”イイモノ”イベントが一括で 掲載された「イベントカレンダー」

現在、広島県内では、様々な魅力を発信するイベントや観光コンテンツを保有している。しかし、その情報発信については各地域内での発信にとどまっている状況が多く、情報発信ツールについても、各地域のイベント情報、観光情報を各地域ごとで作っていることが多いため、プラットフォームが多様化し、実際の利用者にとって、情報の取得が非常に煩雑となっている。また、ジャンルごとやリアルタイムの情報などの取得も難しい。そのため、いくらかいい観光コンテンツを有していても、情報発信不足による機会喪失となっている。

そこで、このような情報を一元化し、需要に応じた項目ごとに表示できるようにする仕組みとして、例えば、広島県各市町のもつ観光情報の発信ツール「Dive! Hiroshima」を運営している広島県観光連盟などと連携し、広島県全域の”イイモノ”イベントが一括で掲載されたデジタル上の情報カレンダーを作成する。情報は、市町の観光地だけではなく、エリアマネジメント団体や各企業が実施するイベントや各地域で有名な飲食店情報も掲載し、一元化されたデータは、各ジャンルごとのソート（歴史、食、スポーツなど）により、需要に応じた情報を提供することが可能となる。

さらに、そのような情報は様々な場所でアウトプットできるような仕組みにして、観光案内所だけでなく、商店街や各地域のガイド役からも発信できる仕組みを目指す。



提言3 コンテンツのブラッシュアップ

“地域間をつなげていくための5つのキーワード”に 即した具体的な施策の実現と 実現のために必要となる組織体制の構築

地域にあるイイモノを活かすためには、まずはその魅力がイイモノであると再編集する必要がある。そのためには、そのコンテンツが魅力的であると再認識するとともに、魅力の発信につながる具体的な施策を実施していくことが必要である。ここでは、まちづくり委員会でこれまで検討してきたコンテンツのブラッシュアップにつながる具体的な施策案について記載する。同時に、このような具体的な取り組みの実現につながるような、組織体制を構築していくことも重要であるため、広島都心会議などのまちづくり組織とも連携しながら、取組の実現につなげていくことが必要である。

具体的な施策案について

まちなか神楽

広島市中心部のホテルで、隔週で神楽を実施。また、都心部のオープンスペースや、イベント、本通りなどの屋外でも実施し、毎週どこかで神楽を実施している環境を整備する。これらにより「毎週どこかに行けば神楽を見ることができる」環境を作る。



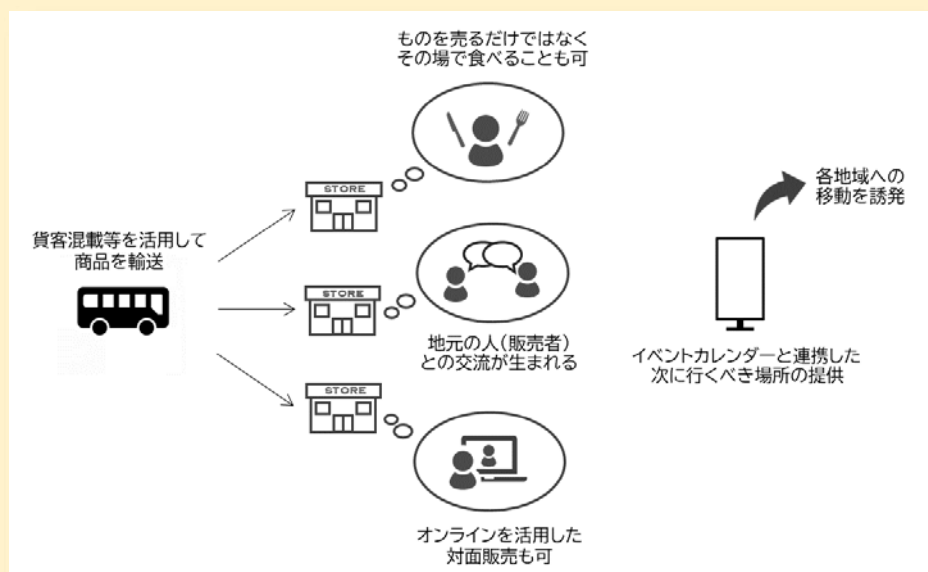
神楽公演(KOI PLACE)

ひろしま市場

再開発などの一角を活用し、都心や観光地等の集客のある地域に常設の市場を整備する。イメージは高知の「ひろめ市場」や金沢の「近江町市場」。ものを売るだけではなく、その場で食べることもでき、かつ生産者が主役の市場とすることで、地元の人と交流できる場所にする。

輸送は、例えばやさいバス(株)がそごう広島店と地元公共交通事業者とを連携して実施している「野菜バス」などの貨客混載等を活用し、また、出店者はマルシェなどに出展されている人を活用するなど、まずは既存の仕組みを活用しながら実施する。時間を設けたオンラインによる対面接客など、デジタル技術も活用しながら、いつも生産者をつながる仕組みや、週末などにはリアルに触れ合えるタイミングも設ける。

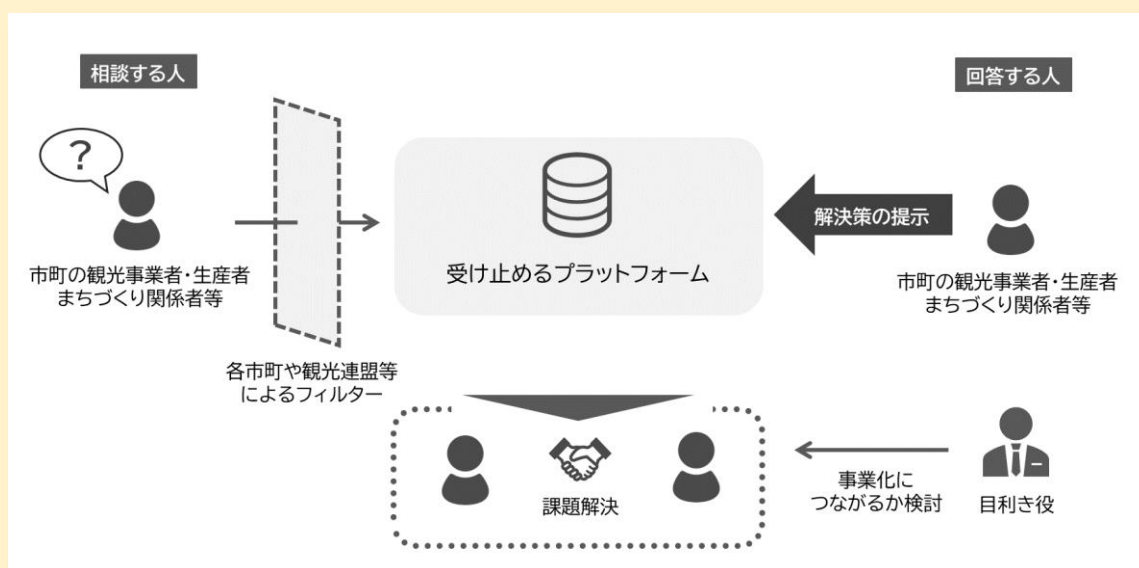
また、リアルタイムな観光情報も提示し、例えばイベントカレンダーと連携し、投票型の「今行くべきスポットベスト5」などを設けるなど、次に行く場所を提示する仕組みづくりも行うことで、広島観光のハブとなる場所とする。



ひろしま市場 イメージ

地域の困りごとと解決策を引き合わせる「マッチングサイト」

WEB上に各地域の方が誰でも気軽に相談できるデジタル上のプラットフォームを整備する。参加者は各地域の悩みを投稿する。投稿内容に一定の基準を設けるため、市町や観光協会などの第三者のフィルターを通したものが投稿される。その内容は他地域の方(都心部・中山間地域共に)閲覧でき、自分たちの持つリソースで解決できる内容があれば、その解決策を提示することで、マッチングを行う。また受け手側には目利き役もあり、目利き役が課題解決策につながる具体的な事業等につなげる働きかけを行う。



地域の困りごとと解決策を引き合わせる「マッチングサイト」イメージ

ワーケーション推進月間の制定

山も海もある風土を活かし、広島県がワーケーション取得率日本一を目指す。ワーケーションを促進させるために、広島県で「ワーケーション推進月間」を制定し、期間中は実施した企業に対して、広島県やワーケーションに訪れた市町から補助金（資金援助）を行う。また、ワーケーションを行いやすいように、ワーケーション先リストを制定し、公開することで、取得に対する働きかけを行う。



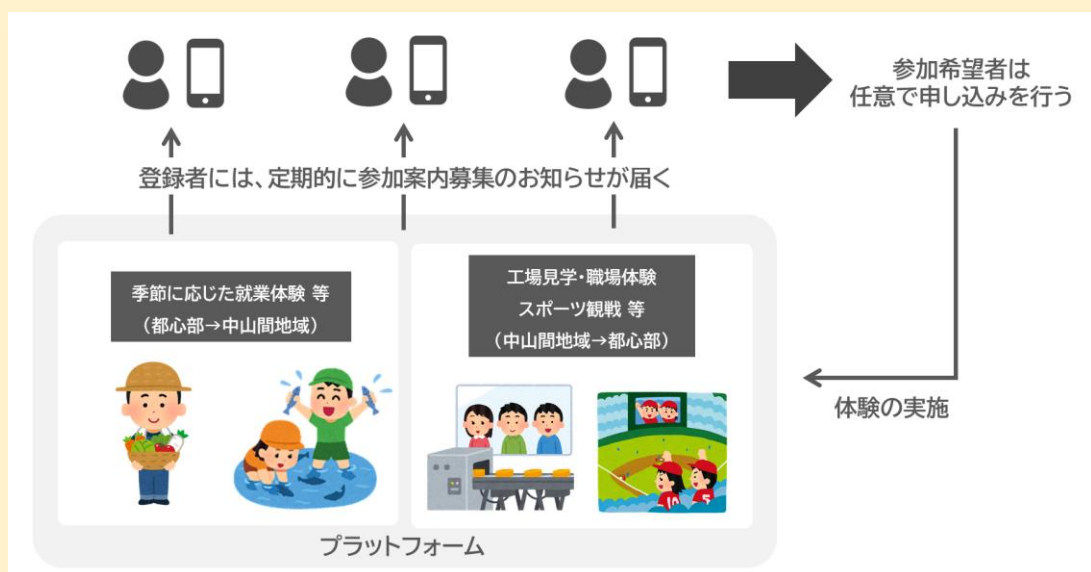
ワーケーション 推進月間スキーム イメージ

「ALL Hiroshima キツザニア」と「大人の社会見学」

現在、小中高生に対して地域を越えた体験による交流が稀薄なため、他地域に対する認識を上げるための、就農体験、郊外学習、林間学校等としての場(仮称:ALL Hiroshima キツザニア)を提供する。

ALL Hiroshima キツザニアは、情報提供となるプラットフォームはWEB上とし、登録は無料とする。各小中学校の広報媒体を活用して案内し、登録者には、中山間→都心(工場見学など)／都心→中山間(就農体験、林業体験、漁業体験、伝統工芸体験など)の季節に応じた体験(有料)案内を相互的な視点で発信する。参加希望者が任意で申し込みを行い、プラットフォームの運営会社到手数料が落ちる仕組みにするなど、ビジネスとして成り立たせるように調整する。

大人の社会見学は、県内の経済団体(経済同友会や商工会議所、広島都心会議)が旗振り役となり、各社の取り組みを体験できる機会を創出する。現在、広島経済同友会をはじめ、様々な企業や組織で、卓話などによる情報のインプットにつながる取り組みは実施されているが、フィールドワーク的な内容はあまり行われていない。一方で、県外からの視察対応や社会見学対応を行っている県内の企業は多いことから、県内企業間でもそのような体験を行う機会を設ける。



ALL Hiroshima キツザニア イメージ

学校間による地域間交流のカリキュラムへの組み込み

広島県内の学校間の交流については、一部の学校間での交流の事例はあるものの、多くの学校ではそのような交流を行っておらず、交流機会が稀薄である。そこで、必修科目としてカリキュラムに地域間の学校間交流を組み込み、幼少期から地域間の交流を生み出すことで、他の地域を自分のまちの一部と感じてもらうきっかけを与える。

実施にあたっては、たとえば「海vs山の魅力」ディベート大会のように、都心部の小中高生に対して、海と山どちらが魅力があるかをディベートで競わせるなど、イベントの要素も含めた内容とする。生徒には海と山のどちらに行きたいかをアンケート。実際に現地での地域の人との交流などにより、それぞれの良さを整理する。その後、それぞれの良さをお互いが自慢し合い、どちらが良いかをジャッジする。このような取り組みなどにより、各地域の良さを自主的に見つけるとともに、地元の資源である海山それぞれへの愛着を持つことにつなげる。

熱量のある人が登録(一元化)されたプラットフォーム

地域間をつないでいくためには、やる気のある当事者が必要であるが、観光やまちづくり、歴史、文化、飲食、一次産業など、特定の分野においては熱量のある人を取りまとめているコンテンツはあるものの、それらを一元化したものがないため、各ジャンルごとに精力的に活動をしている人を取りまとめてデータベース化を行う。

登録された方とのマッチングできる仕組みも構築し、地域間のマッチングや観光コンテンツとして活用することで、地域の有名人のコンテンツ化を図る。

マルシェの自走化に向けた支援

都心部の受け皿を活用したマルシェは各地域の魅力を地域外に発信することに加え、出店者同士の横のつながりの創出、地域内の関係性の構築、また情報の横連携の創造につながるといった様々な効果が期待できる。

そこで、広島市中心部で受け皿を持つまちづくり団体などと連携し、三次庄原フェアのような各地区のマルシェイベントなどの実施を推進していく。

イベントの継続的な実施にあたっては、出店料やイベント対応者の人件費等「ヒト・カネ」の課題解決が必要であるため、広島都心会議などの団体と連携し、実施に係る費用を支援できる仕組みづくりを整備していく必要がある。

また、現在、広島市の都心部では、受け皿の増加に伴い、マルシェの開催数が増加傾向にあるが、一方でマルシェを開催するイベンターやコーディネーター不足が課題である。そこで、イベントを企画実走させるためのプロデューサーを育成する取り組みも必要もある。

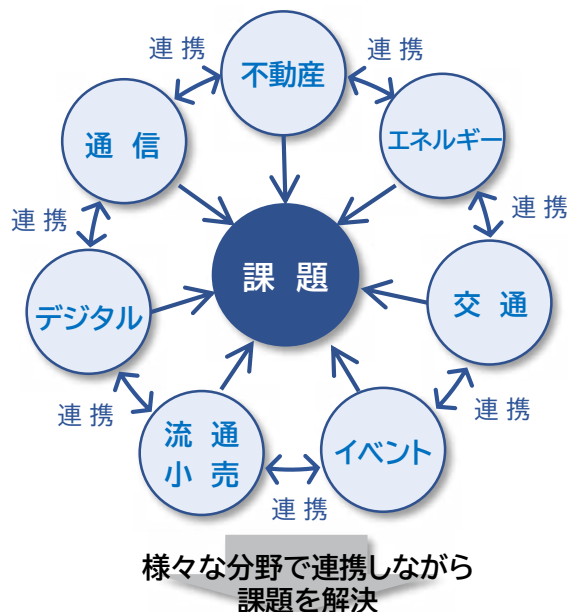


おわりに

元気なまち“ひろしま”を作るためには プレイヤー・企業・まちづくり組織・行政等の 連携による「共創」が必要

各テーマに沿った「地域間をつないでいく」ための具体的な取り組みを実行するためには、様々な分野から課題解決に取り組むべきであり、そのためには、単独の企業や団体の活動だけではなく、必要に応じて他者との連携・共創を行っていく必要がある。様々な人、企業、団体がこの視点を持ち、まちの課題を自分事として捉え、連携しながらアクションを行っていくことの積み重ねが元気なまちにつながると考えられる。

また、広島経済同友会としても、県内に各支部があり、多様なテーマの委員会活動を行っているサステナブルな組織体制を持つ我々こそが様々な地域や分野をつなぐ「つなぎ役」にふさわしいという考えを持ち、今回提言した具体的な施策を実現させるためには、様々な分野と連携を強めていき、実現につなげていくべきである。そのため、まちづくり委員会としてもこれまで以上に広島経済同友会として、支部間連携や委員会連携を積極的に行い、「オール広島」でまちの課題解決に向けた具体的な取り組みが遂行できるような働きかけを行っていく。



元気なまち “ひろしま”

具体的な連携策の事例

「まちなかHAPPY CRISTMAS」

広島中心部にて、クリスマス時期の賑わいを創出するイベントとして、まちづくり団体や商業施設、メディア、交通事業者が連携して、広島のマちなかまんなかでクリスマスと音楽を楽しむイベントを実施。オープンスペースや商業施設で連携してクリスマスにちなんだイベントを連動して実施するとともに、交通事業者がイベント間をクリスマスにちなんだイベント電車で結びつけた。また、これらの連携した取り組みを一帯のあるものとして、メディアで紹介するなど、様々な分野が連携して賑わいの創出につながる取り組みを実施した。



概 要 版

提言書「オール広島で「元気なまち“ひろしま”」を作るための3つの提言」 概要

第1章 背景・目的（今、何が必要か？）

広島都心部のまちづくりの流れ（経済同友会の動き含む）

- ・都市機能委員会の提言（H28）以後、都心部で相次ぐ再開発が計画
- ・広島都心会議の設立

受け皿の整備はみられるものの、披露するコンテンツが不足

提言書作成の背景

- ・「都心部」と「中山間地域」をつなぐためには、各地域の特色・不足している点を補い合う、連携・共存策、具体的な「つなぐ役割」を担う「方法・手段」を検討することが必要
- ・県内各地区の都心部は「受け皿の整備」、中山間地域は「魅力あるコンテンツのブラッシュアップ」

➡ 都心部、中山間地域のそれぞれが持つ資源を効率的に活用し、相互に魅力向上が図れる具体的な連携策について各地区へのヒアリングや具体的な活動を通じて見えてきた点を踏まえ、提言する

第2章 現状と課題（支部ヒアリングを踏まえて）

オール広島で「元気なまち“ひろしま”」を目指すために、広島の各地域で行われている取り組みや抱えている課題を整理する

- ・広島市中心部：相次ぐ再開発／公共空間の利活用
エリアマネジメント団体／広島都心会議
- ・呉地区：既存のコンテンツを結び付けた観光商品造成が必要
Free Wi-Fiなどのハード面の整備が課題
- ・三原地区：みはらイベントパコ／三原やっさ祭りの知名度向上
- ・尾道地区：HPIによる情報の横連携／冬季や夜のコンテンツ不足
- ・福山地区：（株）築切家守舎による賑わい創出／エリアマネ組成が必要
- ・備北地区：地域の魅力が当たり前すぎて魅力に感じていない
一元化された情報プラットフォームが必要
- ・東広島地区：ディスカバー東広島／地域外への発信が課題

共通課題① 行政・経済界・民間の連携が希薄
地域での活動団体は多くあるが、横連携ができていない

共通課題② 域内での情報収集等は進んでいるが
地域外への情報発信が弱い（できていない）

共通課題③ 地域のいいものは多くあるが
結びつけができていない

➡ これらの課題に対する解決策を提言の3つの軸とする

第3章 まちづくり委員会の具体的な活動（地域間連携のための課題解決に向けた具体的な活動）

関係者ヒアリング

教 育）地域間の学校交流は地域の良さを体験できるいい機会になるが、カリキュラムの都合で実施できていない ⇒ 教育（共育）
一次産業）農業を産業として自立させるためには、都心部の受け皿を使い、消費者と生産者が繋がる機会が重要 ⇒ 場、ソフト（アクション）
観 光）地域間をつなぐ役割は儲からない。つなぎ役の人や組織が整備され、コーディネートしてもらえると広く広報できる ⇒ 人、発信

発信の場の創出（横川クリスマス／三次庄原フェア）

- ・地域の魅力発信のために、都心部の場を活用したイベントは重要 ⇒ 場、ソフト（アクション）
- ・イベントを自走させるためには、「ヒト・カネ」の課題解決が必須 ⇒ ソフト（アクション）

パネルディスカッション

- ・各地域の魅力を取りまとめる地域内の「つなぎ役」と、そのつなぎ役同士をつなぐコミュニティが必要 ⇒ 人
- ・コミュニティやつなぎ役がビジネスとして成り立つ仕組みが必要 ⇒ 人
- ・中山間地域の持つコンテンツなどの「情報」を都心部側で継続的に発信できる仕組みが必要 ⇒ 発信
- ・各地域の魅力発信の「場」として、マルシェなどの「暫定的な場」と「常設の場」が必要 ⇒ 場、ソフト（アクション）

学生との意見交換 ⇒ 場、ソフト（アクション）

シンポジウム ⇒ 人、ソフト（アクション）、発信

- ・地域内連携・地域間連携のためには「火付け役」が必要 ⇒ 人
- ・地域内連携・地域間連携のためには「青臭い議論」が必要／連携の前提は「よいもの」をつなげること ⇒ ソフト（アクション）
- ・好循環を起こすために、地元の人が誇りを持てるための教育が必要 ⇒ 教育（共育）

第4章 地域間連携のためのキーワード（地域間をつなげていくためのキーワードと目指すべき姿）

人

各地域内に魅力を取りまとめる「つなぎ役」がいて、各地域の「つなぎ役」も連携できている

ソフト（アクション）

「ヒトモノカネ」の問題が解消され、様々な場所でアクションが連鎖して起こっている

場

マルシェなどの場が継続的に提供されるとともに、オール広島の魅力を発信・提供する常設の場所も整備され、そこに県内外の人が常集積している

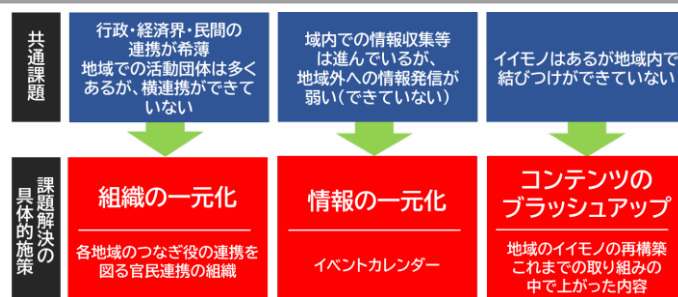
発信

地域の魅力が一元化された「情報プラットフォーム」により、ジャンル別や現在地に対する必要な情報をリアルタイムに提供できている

教育（共育）

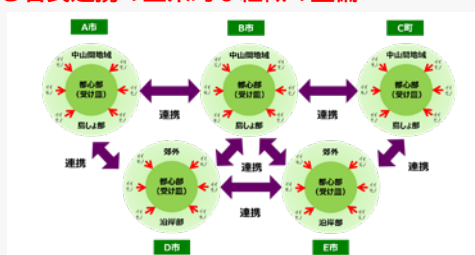
地域を越えた学校間の交流が行われているとともに、観光や遊びなど、体験しながら地域の魅力を学ぶコンテンツが整備されている

第5章 課題解決のための具体的施策（地域間をつなげていくための3つの提言）



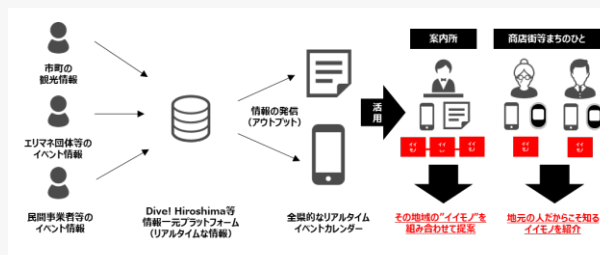
組織の一元化

各地域の「つなぎ役」が一堂に介し、地域間の連携を促進させる官民連携の全県的な組織の整備



情報の一元化

広島県全域の「イモノ」イベントが一括で掲載された「イベントカレンダー」



コンテンツのブラッシュアップ

地域間をつなげていくための5つのキーワードに対して、これまでの委員会の活動の中で上がった具体的な施策の実現と実現のために必要となる(広島都心会議などを中心とした)組織体制の構築

まちなか神楽

広島市中心部のホテルで、隔週で神楽を実施。また、本通りなどの屋外でも実施を行い、毎週どこかで神楽を実施している環境を整備

ひろしま市場

都心や観光地等に常設の市場を整備。イメージは高知の「ひろめ市場」や金沢の「近江町市場」。ものを売るだけでなく、その場で食べることもでき、地元の人と交流できる場所とする。また、リアルタイムな観光情報も提示する

地域の困りごとと解決策を引き合わせる「マッチングサイト」

WEB上に各地域の方が誰でも気軽に相談できるプラットフォームを整備。各地域で課題を投稿し、他の地域は自分たちの持つリソースで解決できる内容があれば、その解決策を提示する

ワーケーション推進月間

広島県のもも海もある風土を活かし、ワーケーション取得率日本一を目指す。広島県で「ワーケーション推進月間」を制定し、期間中は広島県やワーケーションに訪れた市町からワーケーションを実施した企業への支援を行う

「ALL Hiroshima キッズニア」と「大人の社会見学」

WEB上のプラットフォームに小中学生が参加可能な就農体験や職場体験を案内し、登録者が参加できる仕組みを構築する。また、県内の経済団体が旗振り役となり、県内の企業間の視察体験を設ける

学校間による地域間交流のカリキュラムへの組み込み

学校の必修科目としてカリキュラムに地域間の学校間交流を組み込む。たとえば、「海vs山の魅力ディベート大会」のように、イベント要素も含めながら、地域の良さを自主的に見つける取り組みを実施する

熱量のある人が登録されたプラットフォーム

精力的に活動している当事者をジャンルごとに取りまとデータベース化する。登録された方とマッチングできる仕組みの構築により、地域間のマッチングや人の観光コンテンツ化を行う

マルシェの自走化に向けた支援

広島市中心部で受け皿を持つまちづくり団体などと連携し、三次庄原フェアのような、各地区のマルシェイベントを実施。実施に係る費用は、広島都心会議などに支援いただきながら実施する

おわりに

- これらの取り組みの実現のためには、プレイヤー・企業・まちづくり組織・行政等の連携による「共創」が必要
- 広島経済同友会としても、各支部があり、多様なテーマの委員会活動を行っている我々こそが地域や分野をつなぐ「つなぎ役」にふさわしいという考えを持ち、その中で、まちづくり委員会としても、支部間連携や委員会連携をより積極的に行っていくなど、オール広島で広島のまちの課題解決に向けた具体的な取り組みが遂行できるように働きかけを行っていく